

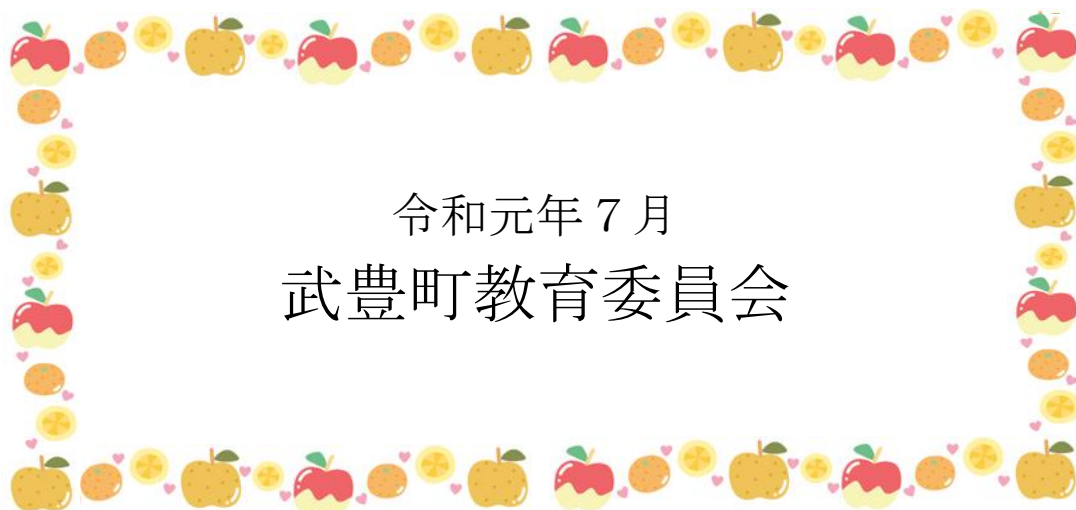
平成30年度（2018年度）

武豊町教育委員会活動の 点検及び評価に関する報告書



武豊町マスコットキャラクター

みそたろう



令和元年7月

武豊町教育委員会

令和元年度武豊町教育委員会点検評価委員名簿

《点検・評価委員》

氏名	所属	備考
林 克次	日本福祉大学非常勤講師	
靱山 信一	武豊町区長会代表	長尾部部長（上ヶ区長）
小塚南海子	民生児童委員女性代表	
西上 肇智	武豊町PTA連絡協議会会長	武豊中学校PTA会長
横井 政和	一般公募	
堀家泰司郎	一般公募	

《教育委員会》

氏名	所属	備考
加藤 雅也	教育長	
永田 淑子	教育委員	
出口 智康	教育委員	
久田 徳彦	教育委員	
小藤 省吾	教育委員	
木村 孝士	教育部長	
森田 良孝	学校教育課長	
藤井 千絵	学校教育課課長補佐	
木下 稔章	学校教育課指導主事	
稲垣 勉	学校教育課指導主事	
明壁 幸治	学校給食センター長	
伊藤誠一郎	生涯学習課長	
鳥居 秀司	生涯学習課課長補佐	
千田裕美子	町民会館事務長	
青木 隆	町民会館事務長補佐	
石田 修	中央公民館長	
山下 恵広	歴史民俗資料館長	
田中 孝往	スポーツ課長	
横田 覚	スポーツ課課長補佐	

目 次

項目	施 策 目 標	所 管	頁
	武豊町教育委員会活動の点検及び評価に関して		1
	武豊町教育委員会機構図		2
1	教育委員会業務の推進		3
2	武豊町学校教育の指針		4
3	武豊町立小中学校児童生徒教員数		7
4	学校の今日的課題に対する教育委員会の取組		8
5	学力向上を目指す事業の推進		10
6	いじめ・不登校対策事業の推進	学校教育課	11
7	教育支援の推進		14
8	保護者負担軽減事業の推進		16
9	教育環境の充実		17
10	保育園、小中学校、高等学校・各機関との連携		18
11	国際理解教育の推進		20
12	安全で安心な学校給食の推進	学校給食センター	21
13	学校給食を通じた食育と地産地消の推進		22
14	学習機会の充実		23
15	情報提供の充実		25
16	人材の育成と活用	生涯学習課 中央公民館	26
17	青少年の健全育成		27
18	生涯学習環境の整備		28
19	文化財の保護・活用	歴史民俗資料館	29
20	町の歴史や文化遺産の再発見と活用		31
21	図書館サービスの充実	図書館	33
22	読書推進		35
23	みんなが文化を楽しむきっかけづくり		38
24	『こども・若者』が豊かな文化の中で育つ環境づくり	町民会館	43
25	芸術と科学による本物体験		44
26	会館の有効活用の促進		47
27	町民が生涯を通してスポーツに親しむことができる環境整備		48
28	総合型地域スポーツクラブの育成支援	スポーツ課	50
29	子どもの体力の向上と青少年健全育成		53
30	スポーツ振興を支える基盤の整備		54
	武豊町教育大綱		56
	武豊町教育委員会点検評価委員会設置要綱		58

平成30年度武豊町教育委員会活動の点検及び評価に関して

1. 報告書の位置づけ

この報告書は、「地方教育行政の組織および運営に関する法律」第26条の規定により、武豊町教育委員会の権限に属する事務の平成30年度の管理及び執行状況について、点検及び評価を実施した結果をまとめたものです。

2. 目的

当点検評価内容を広く住民に公表すると同時に、次年度以降の政策や取組に反映させて、当町教育行政の振興を図ります。

3. 平成30年度の動向

「自らを高めること」「社会に役立つこと」を基本的視点とした第三次愛知県教育振興基本計画「あいちの教育ビジョン2020」及び、「子どもが健やかに育つまち」を基本目標の一つとする「第5次武豊町総合計画（たけとよ ゆめたろうプラン）」の理念を踏まえて方針を検討しました。また、武豊町教育大綱に基づき、平成30年度学校教育の重点努力目標を、「いのちの教育の推進」「新たな教育課題への積極的取組」とし、知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（たくましい体）のバランスのとれた「主体的に生きる子ども」の育成をめざして事業を展開しました。

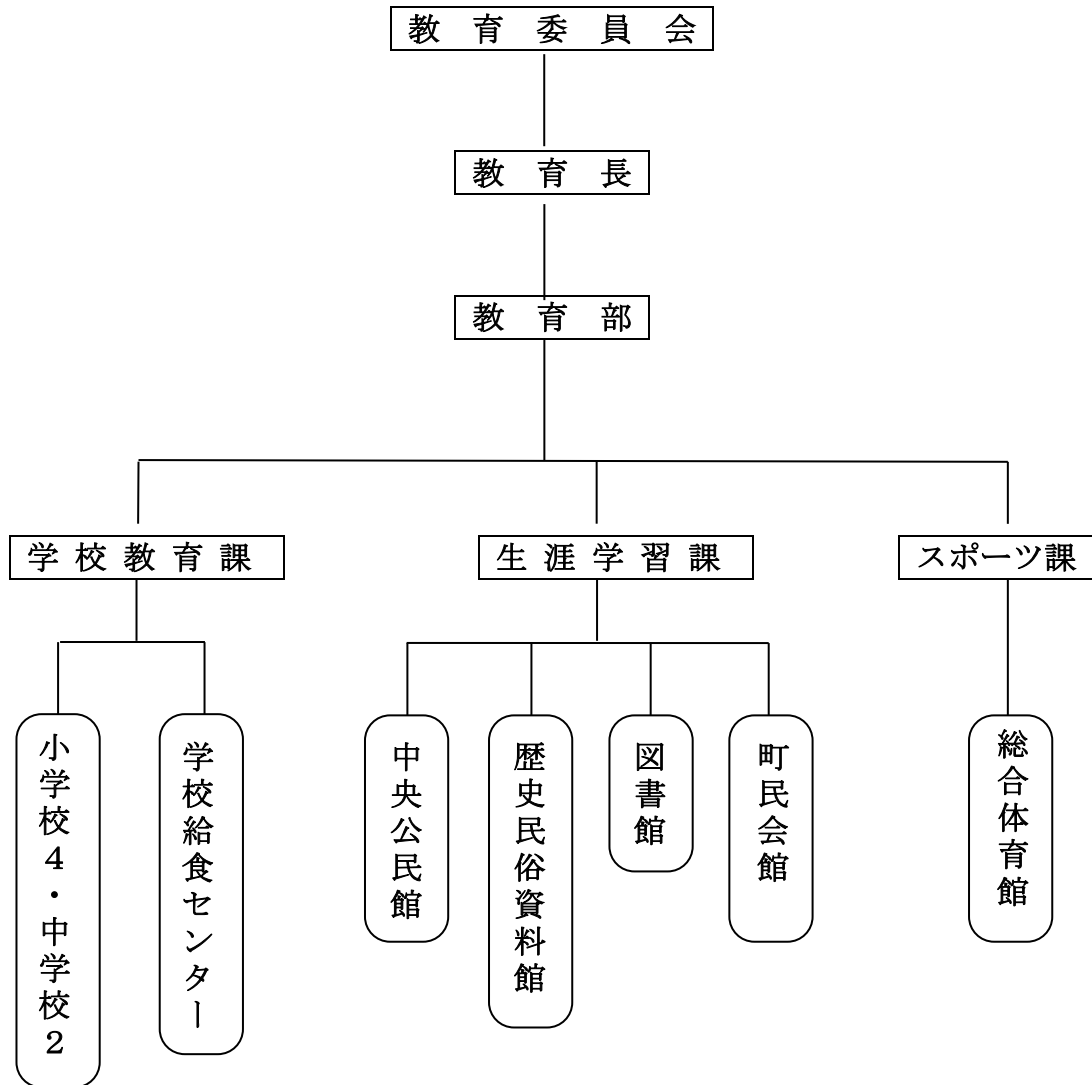
平成30年度は、町長部局とともに2回の総合教育会議を実施し、学習環境の整備、スクールソーシャルワーカーの導入、武豊町部活動ガイドラインの策定ならびに、学校教育の基本方針の検討などを行いました。

生涯学習では、「心を豊かにし、人をむすび文化をつくる生涯学習のまち」を基本目標として、乳幼児期から高齢者までのライフステージに応じた文化活動やスポーツ活動の充実を図り、各施設でそれぞれの事業を展開しました。

4. 評価方法

各所管の主要な施策を主軸に、施策目標、平成30度の主な取組と成果、今後の課題と対応に沿って自己評価を実施し、「武豊町教育委員会点検・評価委員会」で点検・評価を行います。

平成30年度 武豊町教育委員会機構図



1	学校教育課	施策	教育委員会業務の推進
---	-------	----	------------

■ 施策目標

- ① 教育委員会の適正運営の実施
- ② 総合教育会議の実施

■ 平成30年度の主な取組と成果

今年度は、多くの新たな取組に対する協議が行われました。その中で、教育委員からさまざまな質疑および意見が出され、有意義な検討・協議を行うことができました。

① 教育委員会の適正運営の実施

・教育委員の状況

	委員数	年齢及び性別	職 業	保護者枠
教育長	1名	50代 男性	1期目	
委 員	4名	60代3名、50代1名 男性3名、女性1名	歯科医師、元小学校長、会社役員 中小企業診断士・社会保険労務士	1名

・教育委員会の開催状況

開催回数		付議案件		主 な 議 決 案 件
定例会	臨時会	議案	報告	
11	2	25	43	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護委員、いじめ問題専門委員会委員等の委嘱 ・定例町議会の議案及び補正予算 ・小中学校の儀式、年末年始行事等 ・平成31年度 学校教育の指針・重点施策 ・平成31年度定期人事異動、辞令伝達 ・平成31年度 教育委員会事務局各課別事業別予算 ・教育委員会関連の委員・指導員等の委嘱

・教育委員の主な活動

定例教育委員会、総合教育会議、教育委員会点検評価、辞令交付、教職員人事校長面談、学校訪問、予算要望ヒアリング、小中学生海外派遣事業、入学・卒業式、学校教育実践発表会、成人式、福寿大学、町民文化祭、図書館フェスタ、たけとよウォーカー、町教育懇談会 等

② 総合教育会議の実施

開催回数		協議案件		協 議 案 件
定例会	臨時会	協議案	報告	
2	0	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の整備（エアコンの設置）について ・スクールソーシャルワーカーの導入について ・武豊町部活動ガイドラインについて

■ 今後の課題と対応

新教育長制度のもとで、教育長と教育委員の連携が円滑に行われています。今後は、町長部局とさらなる連携を図って、実効性のある教育行政の実現を図っていきます。

また、教育委員会主催行事をはじめ、町や学校などの行事へも積極的に参加し、学校現場の様子や児童生徒の状況等の把握に心がけ、教育委員会での審議に役立てていきます。

2	学校教育課	施策	平成 30 年度武豊町学校教育の指針
---	-------	----	--------------------

武豊町教育委員会

1 学校教育の目標

武豊町の小中学校では、教育大綱に掲げた第5次武豊町総合計画の将来像である「心つなぎ みんな輝くまち 武豊」をめざし、これからの時代に志高く未来を創り出していく人材として、自ら考え行動できる「主体的に生きる子ども」を育てます。

第5次武豊町総合計画の将来像

「心つなぎ みんな輝くまち 武豊」

基本目標4 子どもが健やかに育つまち（子どもが楽しく学校生活を送っているまち）

2 日々の教育活動を通じて育て上げていく子どもの姿

求める子ども像 確かな学力、豊かな心、たくましい体

- 進んで、あいさつ・返事・整理整頓ができる礼儀と節度をもった子ども
- 自ら学び、自分の思いや考えをはっきりと表現できる子ども
- 人々や社会のために役立つことに喜びをもち、進んで行動する子ども
- 思いやりの心をもち、進んで心や体をきたえる子ども
- 身の回りの環境を大切にし、清掃活動にはげむ子ども

3 日々の教育活動を通じて創りあげる具体的な学校の姿

求める学校像 はつらつとした学校生活、あいさつが行き交う学校、安全・安心な学校

- 子どもが行きたくなる学校
朝、子どもが目を輝かせ、元気に家を出られる学校でありたい。
- 親が行かせたくなる学校
親が安心して子どもを学校に送り出し、日ごろの教育活動やわが子の教師を誇れるような学校でありたい。
- 教師がやりがいのある学校
教師一人一人が、教育愛と情熱、使命感をもち、生き生きと活動できる、明るい教職員集団（学校）でありたい。

4 本年度の重点努力目標

いのちの教育の推進・新たな教育課題への積極的取組

- 「ありがとう」が交わせる、感謝と思いやりの心をもった子どもを育てます。
- 自他のいのちを大切に作る心を育て、共に学び合い高め合える学校をめざします。
- 学習規律・生活規範意識の定着を図り、主体的に活動する子どもを育てます。
- 「特別の教科 道徳」を核として、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てます。
- 移行期間の「小学校外国語教育」に関する研究を推進し、完全実施に向け積極的に取り組みます。
- 教職員の多忙化解消に向けて、事業・行事の見直しや意識改革を推進します。
- 「チーム学校」を合言葉に、家庭や地域・関係機関と連携し、信頼される学校づくりに努めます。

5 指導の重点

各校の教職員は、「チーム学校」の一員として校長のリーダーシップのもと、子ども一人一人の成長を願い、教職員の服務規律を徹底し、一致協力して具体的な実践に努める。

(1) 自他をともに尊重する、心豊かでたくましい人間性の涵養をめざす。

- ①「ありがとう」の言葉を通し、自己の大切さとともに周りの人の大切さも認めることのできる子どもを育てる。
- ②「いのちの教育」を充実させ、いのちを尊び、進んで心や体を鍛えようとする態度を育成する。
- ③言動を共感的に受けとめ評価することで、子どもたちの自己肯定感を高める。
- ④道徳教育の要となる「特別の教科 道徳」を実践し、より質の高い指導方法及び評価についての研究を充実させる。

(2) **新しい時代に対応する教育を推進するとともに、学校や地域の実態を十分に踏まえた特色ある教育活動の実践に努める。**

- ①次期学習指導要領を見据え、「主体的 対話的で 深い学び」などに対する理解を深め、「プログラミング教育」などの実践に向けた準備を段階的に進めていく。
- ②移行期間となる「小学校外国語教育」について、町英語部会を中心に研究を推進し、教員の研鑽を深めていく。
- ③ユニバーサルデザインを意識した支援方法を工夫し、「できる・わかる授業」を展開する。
- ④学習規律の定着を図るとともに、学校と家庭が一体となり、家庭学習の習慣化を支援する。
- ⑤子どもの実態と地域の状況を十分に把握し、地域素材を生かした教育活動を展開する。

(3) **子どもとの心のふれあいを大切にし、望ましい生活習慣や社会性の育成に努める。**

- ①一人一人の存在を大切にし、自己肯定感や充実感を感じられる「居場所づくり」に努める。
- ②「あいさつ・返事・はきものそろえ・ありがとう・ごちそうさま」の態度を育成する。
- ③生徒指導について、町生徒指導研究部会を軸に町内保・小・中学校の連携を密にし、一貫した生活規範意識の確立に取り組む。
- ④いじめ、不登校、虐待などへの対応を明確にし、子どもや家庭の状況把握とともに、校内及び関係諸機関との連携を密にして早期発見・早期対応に努める。
- ⑤ゆとりをもって子どもとふれあえるよう、教職員のワークライフバランスを大切にする。

(4) **「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、家庭や地域社会・関係機関との連携を深め、新しい時代に求められる資質・能力を育む。**

- ①不祥事防止に向けて教職員の資質向上に努め、地域に信頼される学校づくりを推進し、子ども・教職員・地域の人々が協働できる機会や場の充実を図る。
- ②「地域の子どもを地域の大人が育てる」ことを主軸に、開かれた生徒指導に努め、小学校区での家庭教育推進連絡協議会や武豊町生徒指導推進連絡協議会と連携する。
- ③「あいさつ・安全・安心・ありがとう」の3A+1運動を充実し、地域と連携した人がつながる町づくりに協力する。
- ④「あいちの教育ビジョン 2020 ー第三次愛知県教育振興基本計画ー」に基づき、自らを高め、社会に役立つことを基本的視点とした「あいちの人間像」の実現をめざす。

【つなぐ】

- 施設・関係機関との連携と活用
- ・役割と責任、感謝と思いやり
 - ・助け合い、認め合い、高め合う心

【みんな】

- 保護者・地域・教育関係団体との連携と協働
- ・学校・家庭・地域の連携
 - ・自然、歴史、文化、科学・スポーツの調和

第5次武豊町総合計画の将来像



【心 つなぎ みんな輝くまち 武豊】

いのちの教育の推進・新たな教育課題への積極的取組

総合教育会議

- 「武豊町教育大綱」の具現化
町長部局との連携強化
教育条件整備
いじめ・不登校問題への対応
次期学習指導要領への具体的対応
教職員の多忙化解消

確かな学力

- 学んだ知識の活用
- できる・わかる授業の展開
- 家庭学習の定着
- 英語・外国語活動の推進
- 少人数指導の充実
- 特別支援教育の推進
- 学習規律の定着

求める学校像

- はつらつとした学校生活
あいさつが行き交う学校
安全・安心な学校

チーム学校

- 行きたくなる学校
行かせたくなる学校
やりがいのある学校

豊かな心

- 特別の教科 道徳の実践
- いのちの教育指導案集の活用
- 自己肯定感の育成
- 人権教育の推進
- 福祉実践教室の推進
- 情報モラル教育の徹底
- 生活規範意識の定着
- 小中学校海外派遣事業の推進

知

徳 体

たくましい体

- 学校体育の充実
- 適切な部活動運営
- 子ども会、地域スポーツクラブとの連携と支援
- 自他の命を守る防災教育
- 給食残食の減量

求める子ども像

- 確かな学力（自ら学び、自分の思いや考えを表現できる子）
豊かな心（思いやり・感謝・礼儀・奉仕のこころをもった子）
たくましい体（進んで体をきたえる・汗して働く・やり遂げる子）

主体的に生きる子ども

【平成30年度 推進のキーワード】

- ありがとう
- チーム学校
- ユニバーサルデザイン
- 主体的・対話的で深い学び
- 道徳教育
- 外国語教育
- いじめを許さない学校
- 不登校児童生徒への支援
- 自己肯定感
- ワークライフバランス
- 教職員の服務規律

「心を豊かにし 人をむすび 文化をつくる 生涯学習のまち」

第2次武豊町生涯学習基本構想

3	学校教育課	施策	武豊町立小中学校 児童生徒教員数 (H30.5.1現在)
---	-------	----	------------------------------

学校名		武豊小			衣浦小			富貴小			緑丘小			合 計		
		組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支
学 年	1 年	4	147	9	3	73	1	3	91	2	3	110	7	13	421	19
	2 年	4	118	8	2	73	4	3	79	1	4	121	3	13	391	16
	3 年	4	154	4	2	81	2	3	89	2	4	121	0	13	445	8
	4 年	4	138	2	3	82	0	3	84	2	3	104	4	13	408	8
	5 年	4	136	2	2	64	3	3	89	3	3	120	6	12	409	14
	6 年	4	147	2	3	96	2	2	77	4	4	145	4	13	465	12
計		24 5	840 (840)	27	15 2	469 (456)	12	17 3	509 (493)	14	21 4	721 (736)	24	77 14	2,539 (2,525)	77
教 員		39 (39)			24 (24)			26 (24)			32 (32)			121 (119)		

学校名		武豊中			富貴中			合 計		
		組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支
学 年	1 年	9	304	7	3	105	1	12	409	8
	2 年	8	330	9	4	158	4	12	488	13
	3 年	8	318	5	3	105	3	11	423	8
計		25 4	952 (980)	21	10 2	368 (376)	8	35 6	1,320 (1,356)	29
教 員		51 (54)			23 (25)			74 (79)		

※組の計の下段は特別支援学級数

※人数の（ ）は前年度値

4	学校教育課	施策	学校の今日的課題に対する教育委員会の取組
---	-------	----	----------------------

1 新学習指導要領実施に向けて

(1) 道徳の教科化

今年度小学校では、「特別の教科 道徳」が完全実施され、教科としての道徳教育が始まりました。各校では、様々な場において授業研究や研修が行われ、教育委員会としても、昨年度から進めてきた指導法の確認および改善、研修等を継続して行っています。

また、来年度からは、中学校において「特別の教科 道徳」が完全実施されるため、その体制作りにも取り組んでいきます。

○ 学校訪問を通して、「考え議論する道徳」や「道徳科の評価」について、職員への理解と周知をさらに進めました。

【成果】

小学校の学校訪問における道徳の授業研究数22実践（全体106の実践）と、前年度に比べて授業研究の数自体は減少しましたが、一つ一つの授業において、質の高い授業が行われていました。

中学校は、授業研究数35実践（全体61の実践）と、半数以上の授業において道徳の研究が行われました。また、来年度は、武豊中学校において道徳に関する県の指定を受けた事業も行われるため、中学校における道徳教育の意識も高まっています。

【課題】

道徳の評価については、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握することと、数値などによる評価を行わないことが学習指導要領で挙げられました。児童生徒の成長の様子を評価するにあたっては、各時間の振り返りの累積を行ったり、1時間の中でも始まりと終わりの段階でどのように価値観が変容したかを見取ったりするなど、様々な方法が検討されています。

今後も、評価の方法については、国や県の動向も注視しながら、適切な指導を行っていく必要があります。

(2) 小学校外国語活動・外国語科への対応

今年度から、新学習指導要領の移行措置期間となり、小学校3・4年生では、年間15時間の外国語活動の授業が始まりました。また、小学校5・6年生では、年間15時間分の外国語科の内容を踏まえた、年間50時間の外国語活動を行いました。平成30年度、令和元年度の移行期間を経て、令和2年度からは、小学校3・4年生で年間35時間（週1時間）の外国語活動の授業が始まります。また、小学校5・6年生では、年間70時間（週2時間）の外国語科となり、これまでの外国語活動と比べると、週1時間授業が増え、さらに教科となるため、教科書を使用した学習へと変わります。

そこで、教育委員会としては、移行期間から新学習指導要領全面実施への流れを円滑に行うための対策に力を入れました。

- A L T (アシスタント ランゲージ ティチャー：外国語指導助手) の充実と担任の指導力向上への対策を行いました。

【成果】

今年度は、町内の小学校3・4年生の年間15時間の外国語活動の時間および、小学校5・6年生の年間50時間の外国語活動（一部外国語科の内容を含む）の時間には、すべてA L Tを配置することができました。これまで同様に、A L Tと連携をすることによって、円滑な授業を実施することができました。

また、今年度末に契約が満了となる、現在のA L T派遣業者との契約を随意契約で令和2年度末まで延長しました。これにより、平成30年度、令和元年度の移行期間および令和2年度の新学習指導要領全面実施の開始年度まで、同一業者による円滑な指導を行うことができます。その中で、授業で使用するカリキュラムの英訳や小学校5・6年生の外国語科における評価方法の研修など、今年度から令和2年度にかけて各校担任に向けた指導を継続的に実施していきます。

また、県に希望していた外国語専科教員の配置が認められ、来年度からの派遣が決まりました。外国語専科教員は、担任が外国語の指導を行うためのカリキュラムの整備をしたり、授業中のA L Tとの連携の仕方などを担任に指導したりする役割を担います。次年度小学校の4校に巡回指導するための学校の割り当て等を行いました。

【課題】

来年度までは、3年生から6年生まですべての外国語活動の時間にA L Tを配置することができます。ただし、令和2年度からは、授業時間数の増加に伴い、小学校5・6年生では、担任のみで授業を行う時間が出てくるため、A L Tとの連携がない授業の流れを担任に指導する必要があります。これまで、A L Tと連携した授業を中心としてきた担任への指導を適切に行うことが求められます。

2 教職員の多忙化解消

今年度は、愛知県教育委員会が策定した「教員の多忙化解消プラン」をもとに、小中学校の保護者に対して、趣旨の理解と様々な取組への協力を依頼しました。また、各学校における職員の在校時間の把握および時間外在校時間の縮減に向けた取組を行いました。

【成果】

- 平成30年8月13日～15日を学校閉校日とし、職員の連続休暇を取りやすくしました。
- 各校にて、一定の退校時間を徹底とともに、独自の定時退校日などを設定しました。
- 「部活動ガイドライン」策定部会を立ち上げ、ガイドラインの策定を行いました。
- 自動音声による電話対応導入に向け、機器の検討および運用の意見集約を行いました。

【課題】

- 全体での意識は高まっているものの、個々の教員を見ると、長時間勤務になっているところが見られるため、個別の対応、指導が必要になってきます。

5	学校教育課	施策	学力向上を目指す事業の推進
---	-------	----	---------------

■ 施策目標

- ① 効果的な小学校外国語（英語）指導へのサポート
- ② スクールアシスタントの効果的な活用



■ 平成30年度の主な取組と成果

- ① 効果的な外国語（英語）指導へのサポート……30年度は、町内6小中学校を対象として、小学校に3名、中学校に1名のALT（外国語指導助手）を配置しました。今年度は小学校3・4年生（年間15時間）および5・6年生の外国語活動（年間50時間）のすべての時間にALTを配置することができました。各校配置のALTは今年度2年～3年の経験があり、各学校の様子を熟知した上で指導にあたることから、担任との打合せ時間の確保が難しいなど課題のある中で、円滑な連携のもと児童への指導を行うことができました。

年度	授業の対象	総授業時数	ALT人数
H30	3・4年(15) 5・6年(50)	1640時間	4人
R1	3・4年(15) 5・6年(50)	1580時間	4人
R2	3・4年(35) 5・6年(70)	2520時間	※4人

また、今年度から、新学習児童要領の全面実施となる令和2年度へ向けての移行期間としての指導が始まりました。外国語指導では、令和2年度から5・6年生の授業が「外国語科」として教科となります。教科書を使用するとともに、評価を行っていくことになるため、今年度から、「パフォーマンステスト」という外国語でのやり取りを評価する方法についても、派遣業者のプログラムをもとに、評価におけるALTとの役割分担などについて研修を行いました。

小学校外国語活動・外国語科の授業時数の推移

- ② スクールアシスタントの効果的な活用……教員免許を有し、担任をサポートしながら児童生徒に指導を行うスクールアシスタント（SA）を町で採用し、30年度も全校に配置しました。

30年度のスクールアシスタント配置人数は6校で19名、延べ10,282時間の指導を行いました。各学校において、支援の必要な学級に配置がされ、授業中における個別指導・支援を担っています。学校訪問等でも、担任と協同した指導を積極的に行う姿が見られました。

■ 今後の課題と対応

令和2年度から、小学校外国語科・外国語活動の時間数が増えますが、ALTの配置人数は現状のままになります。そこで、今後は、担任が受けもつ際の授業の指導法についての研修や学級担任とALTの連携といった、指導の充実について、外国語専科教員を中心として支援を充実していく必要があります。

また、スクールアシスタントはここ数年一定数が配置され、各校の指導・支援を行う上で欠かせない存在になっています。ただし、配慮が必要な児童生徒が増加傾向にある中で、増員などの要望も予測されます。予算の中で計画的に適切な配置を行うためにも、今後も、各学校の状況等を注視しながら、対応を検討する必要があります。

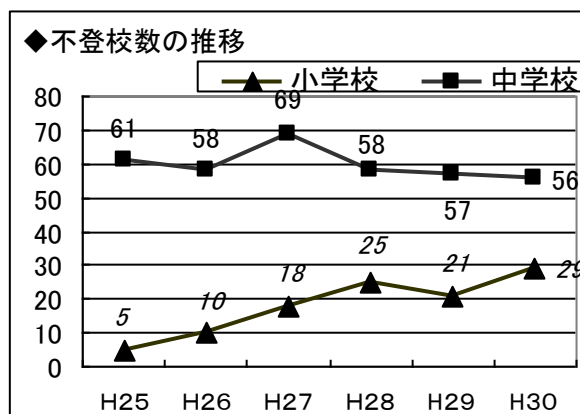
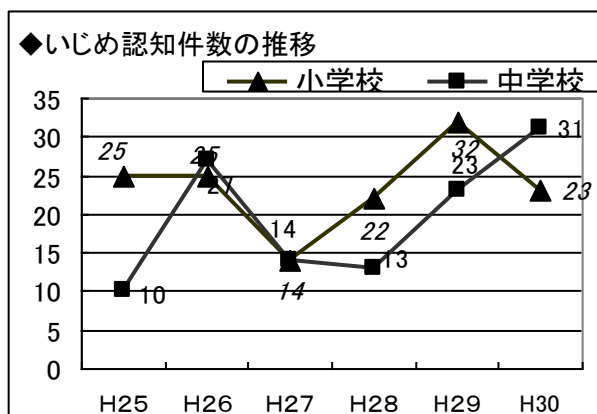
6	学校教育課	施策	いじめ・不登校対策事業の推進
---	-------	----	----------------

■ 施策目標

- ① いきいきスクール推進事業の継続
- ② スクールサポーターの継続配置
- ③ 武豊町適応指導教室「ステップ」の継続運営
- ④ スクールカウンセラー活用事業の継続
- ⑤ スクールソーシャルワーカー導入の検討



■ 平成30年度の主な取組と成果



いじめの認知件数は、ここ数年で増加の傾向にあります。各校においていじめに関わる事案をしっかりと把握することが進められてきている中で、中学校は増加の傾向が続いています。

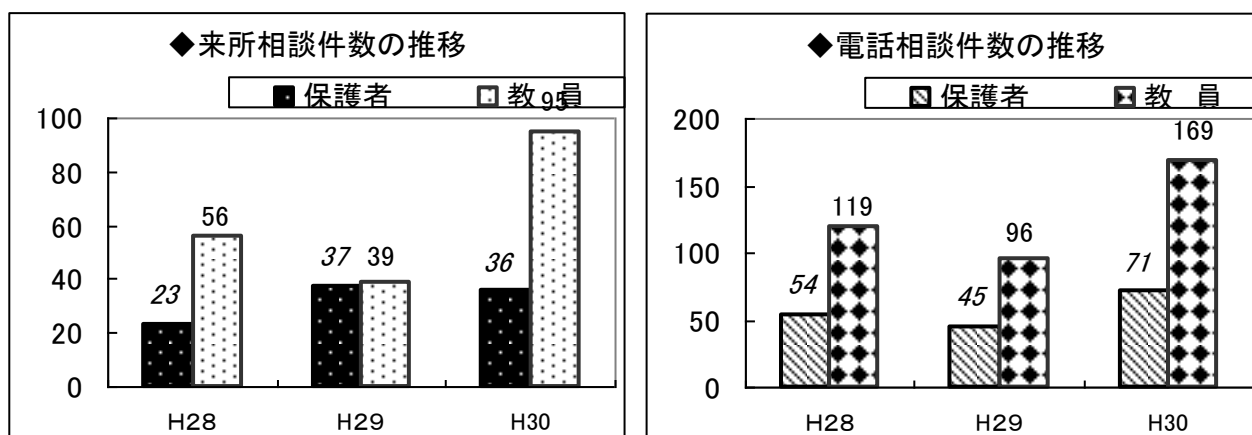
また、不登校の人数は、小学校で少しずつ増加の傾向が見られます。30年度、いじめによる30日以上欠席があった案件、いわゆる重大事態に当たるものは、小中とも該当はありませんでした。

- ① **いきいきスクール推進事業の継続**……30年度も両中学校の校内における適応指導教室を設置し、町職員の配置を行いました。30年度は、武豊中学校「いきいき」で受け入れた人数は、実数で9名、富貴中学校「オアシス」で受け入れた人数は、実数で3名でした。それぞれ、登校渋りが始まった際の受け皿として、また、町適応指導教室「ステップ」を経由して、教室に戻る前の段階として、生徒への支援を行うことができました。

さらに、今年度は、小学校における適応指導教室指導員の必要性について、議会などでも議論がなされ、来年度1名の指導員配置が決定しました。この1名については、4校を巡回して支援にあたることとし、運用を行っていく予定をしています。小学校においては、不登校を未然に防ぐことを目的として、登校渋りの兆候が見られるようになった段階で、早急に対応し、欠席が続く前に、校内の適応指導教室指導員が対応する予防的な対応が期待されます。

② **スクールサポーターの継続配置**……不登校や問題行動児童生徒のサポートを目的として、30年度も学校教育課に1名配置をしました。各学校や町適応指導教室「ステップ」等と連携し、担任に代わり家庭訪問や付き添い登校をしました。児童生徒だけでなく、保護者にとっても大きな支援となっていました。30年度は、最大で11名の児童生徒に対応をしました。

③ **適応指導教室（ステップ）の継続運営**……砂川会館を拠点に、学校に行けない児童生徒の復帰支援及び保護者等の教育相談事業を展開しました。30年度は教育相談員1名・指導員1名・メンタルフレンド4名の体制で、入級者11名（H29は5名）に対応しました。今年度は、指導の中で、中学生男子生徒がお互いの関係づくりが円滑になったことに伴って、生活習慣の改善、学習意欲の向上等が見られました。そのうち2名は学校復帰につながっています。



ステップにおける相談件数の推移

④ **スクールカウンセラー活用事業の実施**……児童生徒や保護者・教員へのカウンセリングのために、両中学校に1名ずつ、全小学校で1名（衣浦小学校が拠点校）、計3名のスクールカウンセラーが県費職員として30年度も配置され、延べ620時間の勤務を行いました。町では、中学校の相談活動の充実を目的に、町費で中学校について追加時間の配当をしました。

小学校では、4小学校でのべ167件の相談を行い、中学校では、2校でのべ588件の相談を受けました。中学校の相談では、不登校生徒へのカウンセリングを行う中で、校内適応指導教室への通級ができるようになったものもあり、カウンセラーと校内適応指導教室の連携が効果的に取れた報告もあがっています。

⑤ **スクールソーシャルワーカー導入の検討**……スクールソーシャルワーカーの導入について、次年度導入を視野に入れて、検討を行いました。これまでいくつかの事業を立ち上げて支援を行ってきたいじめ・不登校への対策ですが、スクールソーシャルワーカーを導入することで、各関係機関との連携がさらに効果的に行われることを期待しています。

そこで、次年度の導入に向けては、町内の6小中学校に巡回する形で訪問し、各校の現状把握と喫緊の案件について対応をしていく方向で予定しています。

■ 今後の課題と対応

① **いきいきスクール推進事業の継続**……中学校での校内適応指導教室が軌道に乗ってきている中で、小学校の校内適応指導教室の効果と必要性について今後は考えていく必要があると思います。来年度導入される小学校校内適応指導教室指導員の成果に応じて、今後は時間数の増加などについても検討をしていく必要があると考えられます。

② **スクールサポーターの継続配置**……現在、スクールサポーターが対応している案件については、その働きによって、学校とのつながりを絶やさず、登校ができたり、学校との連絡が取れていたりするものが多くあります。ただし、毎日の対応であったり、時間が不定期であったりする中での活動であるために、今後人員が変わった際に、ノウハウをもっている現在の職員と同じ対応を行うことができるかどうかという心配があります。不登校児童生徒は、特に心理面での配慮が必要であるため、対応を継続していくための方法についても今後検討が必要になってくると思われます。

③ **適応指導教室(ステップ)の継続運営**……今年度の運営は、中学生の学校復帰なども含め、よい成果を出すことができました。ただし、今年度の運営の中で、人数が増えてきたことにより、部屋の対応が十分にできなかったという反省が出てきました。ステップを利用する児童生徒については、特に個別の配慮を必要とする場合が多く、一部屋で活動できる人数が限られてしまいます。そのため、一度に多くの通所があった際に、限られた施設をどのように効果的に使用することができるかという点についても、検討をしていく必要があります。

④ **スクールカウンセラー活用事業の実施**……スクールカウンセラーの需要については、町内のどの小中学校においても、有効に活用されています。また、町費で補充を行っている中学校においても、効果的に活用されており、成果も出ています。

現状での課題は、現状の県費の派遣だけでは十分な対応ができていないということです。小学校は現在1名の派遣で、各学校の訪問機会は月1回に限られてしまいます。中学校においては、各校、週1回の訪問はありますが、希望される案件を考えると、時間数が十分であるとはいえない状況にあります。

7	学校教育課	施策	教育支援の推進
---	-------	----	---------

■ 施策目標

- ① 特別支援員の継続配置
- ② 教育支援委員会の実施
- ③ 日本語指導教室の継続運営
- ④ 国際交流員の活用



■ 平成30年度の主な取組と成果

ここ数年では、特別支援学級に在籍する児童生徒は増加の傾向にあります。また、通常学級に在籍している児童生徒でも、特別な支援を要する児童生徒がおり、その数も増加の傾向にあります。さらに、外国からの帰国子女の転入や外国籍児童生徒の編入も増えてきており、日本語指導の必要性も増しています。児童生徒一人一人の特性を把握し、個に応じた適切な支援ができる体制づくりは各校の教育活動を支えるものであり、その推進がもとめられています。

◆平成30年度特別支援学級児童生徒の状況 ()内は平成29年度の状況

	知的	情緒	肢体不自由	合計
小学校	32 (28)	41 (34)	1 (1)	74 (63)
中学校	12 (12)	14 (16)	0 (0)	26 (28)
合計	44 (40)	55 (50)	1 (1)	99 (91)

◆日本語指導を必要とする外国籍の児童生徒 ()内は平成29年度の状況

	ポルトガル語	フィリピン語	中国語	その他	合計
小学校	13 (15)	1 (4)	1 (2)	3 (3)	18 (24)
中学校	5 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	6 (3)
合計	18 (16)	1 (4)	1 (2)	4 (5)	24 (27)

- ① **特別支援員の配置**…特別支援員は、児童生徒の特性上、安全に配慮が必要であり、個別に対応が必要と判断された場合に配置されるもので、30年度は、武豊小学校(1)、富貴小学校(1)、緑丘小学校(1)、武豊中学校(1)を対象として、町から4名の配置を行いました。個々の特性が多様化する中で、個別の生活支援を行い、児童生徒が安心安全に学ぶ場を保障することができています。
- ② **教育支援委員会の実施**…30年度も、各関係機関の方を委員として招き、小中学校在籍者および新入学者を対象とした教育支援委員会を年2回行いました。30年度の対象者は54名(29年度は51名)で、委員会で就学先を検討する必要がある児童生徒の数は増加しています。また、教育支援を充実させるために、特別支援教育に関わる実務者(保育園・小中学校・高等学校・関係機関)を対象とした研修も年2回実施しました。30年度は、教育支援計画の作成お

よび管理の体制が変わる中で、小中学校だけでなく、自立支援協議会や放課後デイサービスなどの外部団体とも話し合いを行い、多面的な視点で意見をもらい、よりよい教育支援計画の活用について共通理解を図ることができました。

③ **日本語指導教室の設置**……日本語の理解が不十分な児童生徒への支援のため、県費により日本語指導担当教員が1名配置され、衣浦小学校を拠点校として、全小中学校を巡回して個別の指導を行いました。30年度は、小中学校合わせて24名の児童生徒の指導を行いました。また、今年度は、これまで日本語指導担当教員と合同で指導を行っていた国際交流員を切り離し、別枠で日本語指導を行い、増加する需要に対応しました。また、日本語がほとんど話せない児童生徒に対しては、国際交流員が初期指導を行う機会を設けました。

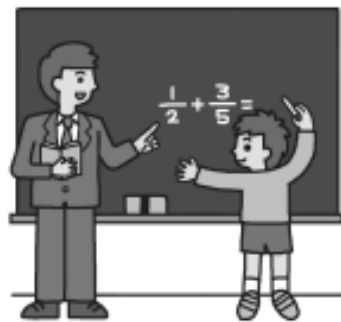
⑤ **国際交流員の配置**……平成28年7月から、国際交流員（ブラジル国籍）を1名配置し、各小中学校での日本語指導を必要とする児童生徒への学習・生活支援を行うとともに、通訳・翻訳を通じた日本語の理解が不十分な保護者への対応も行いました。30年度は町内の5校に在籍している日本語指導が必要な児童生徒に対して、サポートを行いました。

また、学校での指導以外に、国際理解を充実させるための取組としてできることを考えるとともに、次年度は実際に事業として立ち上げることを念頭に活動していくことも話し合いました。

■ 今後の課題と対応

特別な配慮が必要な児童生徒および日本語教育が必要な児童生徒は増加の傾向にあります。安全な生活を確保するために個別の対応が必要となる場合や日本語が分からないことにより学習活動に支障をきたす場合には、個別の対応を行っていきます。ただし、現在配置されている人員で対応できる人数はほぼ限界にきており、今後の状況を考えると、学校内での連携など効果的な指導方法について考えていく必要があります。

また、国際交流員の配置については、現在各学校でのサポートが効果的に行えており、小中学校になくてはならない存在になっています。今後、数年先の配置事業の期限修了に向けて、国際交流員の継続については、町全体で方向を検討する必要があると考えます。また、新しい体制で国際交流員を配置する際には、学校での日本語指導だけでなく、町全体の国際理解充実に向けた取組を行うなど、広い視野で国際交流員の活用を考えていく必要があります。



8	学校教育課	施策	保護者負担軽減事業の推進
---	-------	----	--------------

■ 施策目標

- ① 私立幼稚園就園奨励費補助の充実
- ② 私立高等学校授業料補助の充実
- ③ 要保護児童生徒援助費の充実
- ④ 日本スポーツ振興センター共済掛金負担の充実
- ⑤ 林間学校費補助の充実
- ⑥ 部活動費補助の充実

■ 平成30年度の主な取組と成果

① 私立幼稚園就園奨励費補助の充実

私立幼稚園に通園する保護者の経済的負担軽減のため、所得等により授業料・保育料の補助を実施しました。平成30年度私立幼稚園就園者は62名中50名が補助対象者となりました。

② 私立高等学校授業料補助の充実

私立高等学校等就学支援金制度はあるものの、所得制限により授業料の負担が生じている私立高等学校生徒の保護者に対して、申請により上限12,000円の補助を行いました。

③ 要保護児童生徒援助費の充実

生活困窮世帯の児童生徒の保護者に、給食・学用品費のほか修学旅行等の費用の一部を援助しました。

④ 日本スポーツ振興センター共済掛金負担の充実

学校管理下における児童生徒の負傷、疾病に関し、必要な給付を受けるための保険加入掛金を全額負担しました。

【各種補助・援助・給付対象者の推移（人）】

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
私立幼稚園就園奨励費補助	58	57	45	50	50
私立高等学校授業料補助	87	80	77	96	100
児童生徒援助（要保護）	3	3	5	2	1
児童生徒援助（準要保護）	276	283	311	322	328
日本スポーツ振興センター	385	543	420	446	653

⑤ 林間学校費補助の充実

林間学校に参加する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、林間学校の食材費を除く補助の充実を図りました。

《小学校》 4小学校5年生対象（402人） 6,231円／人

《中学校》 武豊中1年生、富貴中2年生対象（460人） 8,407円／人

⑥ 部活動費補助の充実

競技参加登録費、ユニホーム代、消耗品の一部補助を行いました。平成30年度は、富貴中卓球部、武豊中陸上部・柔道部・新体操部の生徒が県・東海・全国大会へ出場しました。

■ 今後の課題と対応

平成30年度も、各事業により保護者負担の軽減を継続して推進してきました。

義務教育の中で、すべての児童生徒が公平に教育を受ける機会を得られるためにも、経済的な支援を必要とする保護者に対しては、学校給食費・学用品費・新入学費・修学旅行費等の援助を継続していきます。また、私立高等学校授業料補助事業については、授業料の学校間格差もあり、国の助成額等の動向を見極め、補助限度額の範囲内で補助していきます。

9	学校教育課	施策	教育環境の充実
---	-------	----	---------

■ 施策目標

- ① 営繕・維持工事の推進
- ② 安全対策の推進

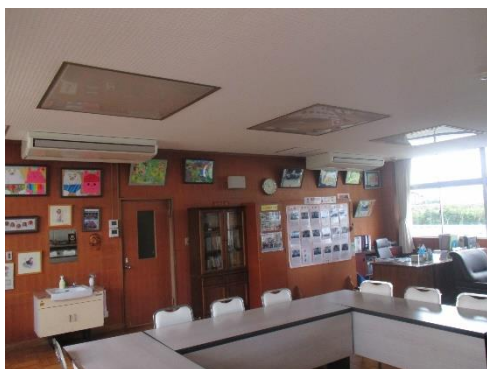
■ 平成30年度の主な取組と成果

① 営繕・維持工事の推進

安全・安心な教育環境を整備するために、緊急性を考慮しながら、必要な営繕や工事を行いました。

【小学校】…衣浦小学校校長室空調設備更新工事、緑丘小学校屋内消火栓用配管改修工事、衣浦小学校・緑丘小学校焼却炉等撤去工事

【中学校】…富貴中学校焼却炉等撤去工事、富貴中学校南館トイレ改修工事



▲衣浦小学校校長室空調設置



▲緑丘小学校屋内消火栓用配管設置

② 安全対策の推進

町のメール配信システムを活用して、町及び各校より緊急情報の提供や注意喚起を行っています。平成31年3月時点で登録した小中学校保護者のアドレス件数は、3,527件となっています。保護者には、タイムリーな情報提供をしており、学校と保護者が連携して、子供たちの安心・安全の確保に努めるようにしています。

■ 今後の課題と対応

武豊町内学校施設の非構造部材の耐震化や老朽化による劣化等の営繕・維持工事を今後も継続的に実施していきます。

また、防災・防犯の観点から、緊急時に適切に対応するためには、日頃からの情報共有が大切であると考えます。そのために、学校警察連携制度の充実や地域の方との情報交換会の実施、子どもかけ込み110番登録者への協力依頼等により、一層の安全確保に努めていきたいと思っております。特にライオンズクラブと提携した3A（あいさつ・安全・安心）運動につきましては、登録者は約4,000人と年々増加しています。この事業は大きな成果をあげていますので、今後も実施していきたいと思っております。

交通安全については学校、PTA、役場関係者等で随時通学路を点検し、見守り隊等の団体とも協力して、安全・安心な環境づくりを協議していきます。

10	学校教育課	施策	保育園、小中学校、高等学校、各機関との連携
----	-------	----	-----------------------

■ 施策目標

- ① 教育支援委員会実務者会議における連携
- ② 要保護児童対策地域協議会における情報共有
- ③ 学校公開日、学校訪問、学校行事等における交流の実施



■ 平成30年度の主な取組と成果

① 教育支援委員会実務者会議における連携

幼児・児童・生徒支援の理解を深め連携を強くするために、保育園、学校関係者、町の関係機関およびNPOなどの外部団体が集まる教育支援委員会実務者会議を年2回実施しています。30年度は、学校関係者と放課後デイサービスの関係者が、教育支援計画（「み・み・た」のサポートファイル）の効果的な活用について情報交換および研修を行いました。今後も、地域と連携した支援についての話し合いを継続していきます。

【実務者会議参加】

	保育園関係	小中高校関係	関係機関	施設・団体
参加者 参加団体	11園＋1センター ・園長 ・園長補佐 ・子育て支援センター	7校 ・教務主任 ・特別支援コーディネーター ・特別支援学級担任 ・通級指導担当	2部署 ○子育て支援課 ○保健センター	8団体 ○NPO法人 ○放課後デイサービス ○知多南部相談支援センター ○社会福祉協議会

② 要保護児童対策地域協議会における情報共有

町内に居住する幼児・児童・生徒の健全育成を目指し、子育て支援課が中心となって開催する要保護児童対策地域協議会に本課も参加して、幼児・児童・生徒の状況や家庭環境の変化等について、情報の共有やケース会議を行っています。虐待等の疑いや問題事案に対しては、知多福祉相談センターや町保健センターなどの協力も得ながら、未然防止・健全育成に向けて取り組んでいます。

また、今年度からは、半田警察署も連携機関の一つとして参加をするようになり、学警連携の観点からも、様々な情報交換を行うことができました。さらには、来年度スクールソーシャルワーカーが導入されることに伴い、学校教育と要保護児童対策地域協議会との連携方法の変更についても検討を行いました。

	平成29年度		平成30年度		
	世帯数	人数	世帯数	人数	備考
要保護	3	5	5	7	ネグレクト6、身体虐待1
要支援	7	21	7	13	
特定妊婦	0	0	0	0	

（参加者）小中学校、学校教育課、子育て支援課、福祉課、健康課、半田保健所、知多福祉相談センター、主任児童委員、人権擁護委員、半田警察署

③ 学校公開、学校訪問、学校行事等における交流の実施

学校訪問においては小中学校同士の参観交流を行っています。町の教頭会などとも連携して、効果的な研修機会ととらえ、特に少経験者の教員に声をかけ、授業の空き時間等を利用して、積極的に参加するよう促しています。

また、小学校の両親学級などの学校公開日や運動会などの学校行事の際には、各園から先生方が見学に訪れて、小学校にあがった卒園児の様子を確認したり、小学校で行われている教育内容について触れたりできる機会として活用をしています。

また、各園の保育参観や各校の授業参観をしたり、子育て支援課が開催する研修会に小中学校教員が参加したりするなど、各園の保育や各校の教育についての共通理解を深める場も設定しています。これらの活動を通して、異校種への理解が深まり、連携を強化することができました。



■ 今後の課題と対応

児童・生徒の特性を理解した継続的な支援は、子どもたちの健全育成にとっては不可欠なものです。今後も一層の連携強化が求められる中で、子育て支援課、学校教育課および健康課や社会福祉協議会などと課や枠を超えて連携を図っていく必要があります。

要保護・要支援の家庭が増える傾向にあり、今後も虐待の件数、緊急保護の事案も増えることが予想されます。学校のもつ情報や指導だけでは対応が難しいケースに対しては、子育て支援課、福祉課との連携はもちろんのこと、民生・児童委員、保護司、人権擁護委員との連携、さらに町の関係機関や警察・福祉相談センターとの連携も引き続き行っていきます。児童生徒の健全育成のために、これまでの保育園、小学校、中学校、高等学校といった「縦の連携」に加えて、町内にある各施設との「横の連携」も含めた意識の共有が重要になってきます。

その中で、関連して開催される会議への参加の仕方については、より効果的な参加の方法について話し合いを進め、学校教育課および新たに導入予定のスクールソーシャルワーカーをうまく活用して、学校の負担を減らす取組も行っていく必要があります。

今後も“武豊はひとつ”の合言葉を一層意識しながら、「顔の見える交流（連携）」実現のため、具体的な交流場面の設定や連携の在り方について、しっかりと意見交換をしながら、必要な内容についての検討をしていきます。

1 1	学校教育課	施策	国際理解教育の推進
-----	-------	----	-----------

■ 施策目標

- ① 武豊町小学生海外派遣事業の実施
- ② オーストラリア・ザビア校との交流

■ 平成30年度の主な取組と成果

① 武豊町小学生海外派遣事業の実施

平成30年度は、2泊3日（8月27～29日）の日程で、児童22名（各小学校5年児童9名、6年児童13名）と引率者4名（団長：武豊小学校長、引率教員3名）の合計26名の派遣となりました。現地では、大光初等学校の児童との交流活動、ホストファミリー宅でのホームステイ、市内観光などの体験および見学を行いました。また、派遣当日だけでなく、夏休み中には4回の事前学習を行い、韓国語の日常会話の学習や出し物等の練習を行いました。さらには、帰国後の9月26日には「帰国報告会」も実施しました。

「報告書」からは、異文化への理解を深め、国際社会に貢献しようとする、人としての成長をそれぞれ見ることができました。



② オーストラリア・ザビア校との交流

平成30年度事業として、来日するザビア校児童との交流を計画していました。6月29日には派遣団員20名（引率教員5名、児童15名）による町長への表敬訪問がありました。また、その後は常滑市の博物館の見学や犬山城の見学など、日本の技術や伝統に触れる活動を行い交流しました。

■ 今後の課題と対応

海外派遣事業への関心は年ごとに高くなってきており、平成30年度は、22名の定員に対して各小学校の5、6年生50名の応募がありました。校内審査を経て、最終的には公開抽選で派遣児童を選抜しました。また、今年度は、ホストファミリー経験者を優先する枠を2名から6名に拡大し、総合的な交流の意識を高められるように配慮しました。

韓国・大光初等学校や、オーストラリア・ザビア校との派遣および受入の事業は大変意義深いものです。この交流事業を継続していくために、学校や保護者の負担を軽減し、派遣の条件を公平にするための工夫改善を続けていく必要があります。

今後も、できるだけ多くの児童生徒に国際交流の機会を提供できるよう進めていきます。



【最終日、仁川空港にて！】

1 2	学校教育課 学校給食センター	施策	安全で安心な学校給食の推進
-----	-------------------	----	---------------

■ 施策目標

- ① 安全で栄養バランスのとれたおいしい給食の提供
- ② 衛生管理の徹底と調理環境の整備充実

■ 平成30年度の主な取組と成果

① 安全で栄養バランスのとれたおいしい給食の提供

給食の献立は、給食センターの栄養教諭が学校給食の栄養基準を考慮したうえで、学校の給食主任者と毎月の定例会で協議し作成しています。また、各学校へ栄養教諭が出向き児童・生徒に対して実施している食の指導等により、食べ物の大切さや食の関心が高まり、町内小中学校の給食の残食率は、主食、牛乳を除いて小学校 1.6%、中学校 0.2%と県内の学校に比べてかなり低い率を維持しています。

また、近年増加傾向にある児童・生徒の食物アレルギー対応として、愛知県教育委員会「学校におけるアレルギー対応の手引き (H28. 2)」に基づき、学校、学校教育課(給食センター含む)、アレルギー対応が必要な児童生徒の保護者が面談を行い、除去食や豆乳への代替など、個別に対応しています。平成30年度に対応した児童生徒は、30人でした。

年 度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
アレルギー対応児童生徒(人)	13	15	22	30

② 衛生管理の徹底と調理環境の整備充実

衛生管理に関しては、委託会社の調理員が積極的に参加し、知識・技能の向上に努めています。また、日常の調理業務時においても、委託会社と綿密に情報交換を行ったうえで、栄養教諭が指導を行っています。この委託会社とは、第5次行革プランに基づき平成26年度より民間委託契約を締結しました。契約期間は平成30年度までの5年間の長期契約で、委託業務は、給食の調理、学校への配送・配膳、回収、食器類の洗浄、施設の清掃等です。5年が経過し、学校給食運営のノウハウが高まり、安全で安心な学校給食を提供することができました。

一方、食材は町が購入し、町の献立や指示書に従って委託業者が調理を行っているため、質の低下は見られません。

■ 今後の課題と対応

昭和50年に施設が建設されて44年が経過し、施設・設備ともかなり老朽化が進んでいます。毎年夏休み期間中に行っている調理機器等の点検結果に基づき、計画的に更新や修繕及び施設の改修工事を実施していますが、修繕、更新及び改修に多額の経費が必要になっています。

13	学校教育課 学校給食センター	施策	学校給食を通じた食育と地産地消の推進
----	-------------------	----	--------------------

■ 施策目標

- ① 学校での食の指導・家庭への啓発
- ② 地場産物の活用等

■ 平成30年度の主な取組と成果

① 学校での食の指導・家庭への啓発

給食センターの栄養教諭が食に関する年間指導計画を作成し、各学校へ出向いて食に関する指導を行いました。児童生徒が正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通じて自らの健康管理ができるように指導を繰り返しました。また、毎月配布している献立表により、家庭へも食の啓発を行っています。

また、2学期末にはデザートを選ぶ「セレクト給食」、3学期末には卒業生を対象としたバイキング形式の「卒業お祝い給食」など、楽しく参加できる給食を実施しました。

一方、給食センターでは、各小学校の児童や保護者の見学・試食を受け入れ給食センターへの理解を深めていただくとともに、夏休みには「親子料理教室」を開催し、親子で食事を作る楽しさ・食べる楽しさを体験する手助けとなる教室を開催しました。



【卒業お祝い給食を楽しむ生徒】

② 地場産物の活用等

地元で取れた安全で新鮮な食材を、農業団体等との連携を図りながら、給食に積極的に取り入れました。特に、6月、11月、1月には、「食育月間」「学校給食週間」等の期間に合わせて、各1週間を地産地消の献立としました。特に武豊産の大豆を1年間の給食で使用する量を確保し、料理に応じて、水煮、豆腐、納豆などに加工して給食に使用しました。

■ 今後の課題と対応

食育については、定期的かつ継続的に栄養教諭が学級を訪問し、児童・生徒に働きかけていきます。また、親子料理教室を夏休みに開催し、保護者の食に関する意識の啓発を図りました。こうした活動が、正しい食習慣や食育につながるものと考え、引き続き学校・家庭と連携して、継続的な支援を行っていきます。

また、地場産物は収穫時期等の関係もあり、1年を通しての使用は難しい面もありますが、農業団体等と綿密な情報の交換を行いながら活用を推進していきます。

14	生涯学習課 中央公民館	施策	学習機会の充実
----	----------------	----	---------

■ 施策目標

- ① 各種講座・教室・イベントの充実
- ② 青少年・成人・家庭教育の充実

■ 平成30年度の主な取組と成果

① 各種講座・教室・イベントの充実

各種講座・教室・イベントの実施状況

※ () 内は平成29年度データ

項 目	実施(回)	延べ参加者数(人)	開催曜日	摘 要
手作りパン教室	5 (5)	74 (119)	土	継続
そば打ち教室 (ざるそば)	2 (2)	20 (21)	金・土	継続
めざせ！新聞博士 新聞の読み方活かし方	1	5	木	新規
ボトルで楽しもう！親子アクアリウム教室	1 (1)	台風で中止 (26)	日	継続
野草教室「身近な植物の魅力」	1 (1)	10 (23)	火	継続
エスニック料理教室	1	12	木	新規
和牛のことを学ぼう！	1	10	火	新規
消しごむはんこ教室	2 (2)	22 (29)	土	継続
切り絵教室	3 (3)	45 (44)	水	継続
手作りパンとお菓子の教室	1(2)	12 (18)	土	継続
手作り豆味噌教室 (赤みそ)	1 (1)	23 (23)	日	継続
手作り麦味噌教室	1 (1)	22 (16)	日	継続
薬膳茶教室	2	23	土	新規
腸大事講座	3 (3)	12 (38)	水・金・金	継続
タルトを作る教室	1	12	金	新規
かなに親しむ教室	3	15	火	新規
消しごむはんこ教室 (第2弾)	2	28	土	新規
コーヒーを楽しむ教室	2 (2)	28 (13)	日	継続
手作り米味噌教室 (白みそ)	1 (1)	38 (16)	日	継続
飾り巻き寿司教室 (親子)	2 (2)	35 (57)	土	継続
公民館まつり	2 (2)	11,991 (12,311)	土・日	5月19・20日
民謡講習会	1 (1)	286 (257)	土	6月23日
ふるさとまつり	2 (2)	7,752 (7,730)	土・日	8月18・19日

近隣市町の情報、メディアやSNSなど、多種多様な情報を始め、施設来館者や実際に受講された方の意見なども踏まえて、講座・教室を企画・設定、実施しました。生涯学習のきっかけづくりを念頭に、バラエティ豊かなプログラム構成を心掛け、夜間や土・日曜日開催の講座を増やすなど、昼間働いている人が参加し易い工夫もしています。



手作り麦味噌教室

② 青少年・成人・家庭教育の充実

青少年教育

※ () 内は平成 29 年度データ

項 目	実施数(回)	延べ参加者数(人)	摘 要
青少年リーダー養成事業	2 (1)	174 (49)	委託事業
たけとよきっず発行	4 (4)		各小学校を通じて児童へ配布
ものづくり教室	1 (1)	40 (40)	小学4～6年生、協力：J F E スチール(株)
サマーサイエンススクール	1 (1)	35 (49)	小学5年生、協力：ファイザー・ファーマ(株)
わくわく科学実験教室	2 (2)	46 (48)	小学3～6年生、講師：中学教諭
子ども英会話教室	4 (4)	17 (23)	小学3・4年生、講師：武豊町A L T
ゆめたろう塾	21(21)	312 (364)	中学1～3年生、学習支援員：公募
成人式	1 (1)	408 (390)	成人の日の前日(日曜日) 午後に開催
居場所づくり事業	12(11)	263 (235)	委託事業
ここちゃんサポート相談	12(12)	41 組(33 組)	委託事業

成人教育

項 目	実施数(回)	延べ参加者数(人)	摘 要
福寿大学	6 (6)	1, 127(1, 350)	講演、健康出前講座など

家庭教育

項 目	実施数(回)	延べ参加者数(人)	摘 要
新米お母さんの教室	2 (2)	12 (14)	1歳未満の子を持つ親を対象
子育てリフレッシュ講座	5 (5)	58 (46)	子育て中の親のストレスを解消
親子ふれあいひろば	20(20)	347 組(360)	就園前の子と保護者の学習活動

■ 今後の課題と対応

中央公民館での教室・講座のメニューは、比較的時間にゆとりがあるシニア・シルバー世代を中心とした内容に偏る傾向があります。社会構造の変化に伴い、若年層の施設利用やグループ活動が課題となって久しくなります。住民ニーズや情報の収集に努めながら、多種多様な教室・講座のメニューを考え、曜日・時間帯についても工夫をするなど、幅広い世代が参加できるよう努めていきます。

青少年教育・成人教育は、生涯学習の基礎を築くという視点に立って、いろいろな学習や体験ができるよう、地元企業や識者の協力も得ながら講座・教室の更なる充実に努めています。

家庭教育では、親が子育てについて学習・相談できる機会を増やしていくとともに、子育てネットワークに準ずる人材の育成に努める必要があります。

また、講座・教室の開催情報などを積極的に発信していくために、SNSを始めとする情報ツールを活用していくことを検討していきます。



親子ふれあい広場

■ 施策目標

生涯学習情報の提供と相談体制の充実

■ 平成30度の主な取組と成果

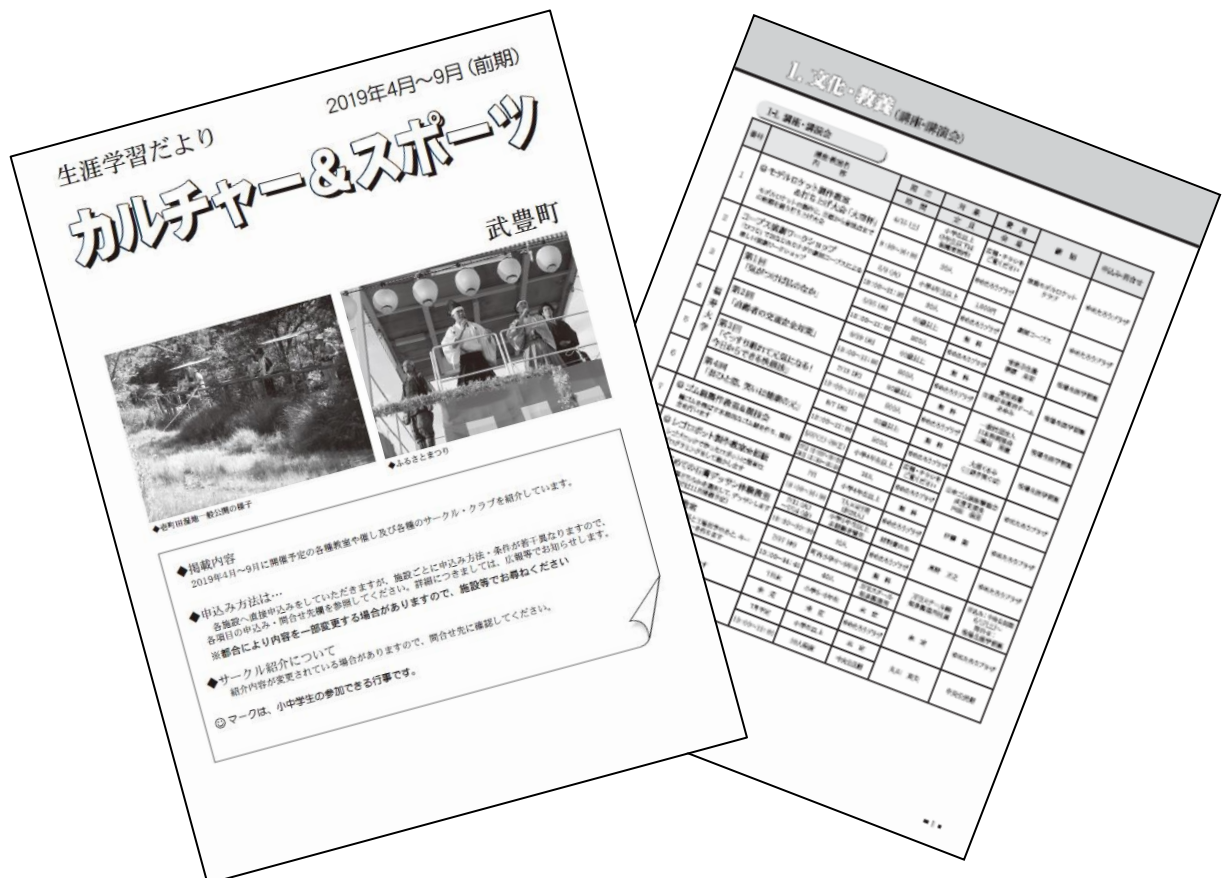
各種教室や催しのお知らせ、各種サークル・クラブを紹介する（サークル紹介は前期のみ）生涯学習だより「カルチャー&スポーツ」を年2回発行し、全戸配布するとともに、教育委員会各施設をはじめ、本庁や富貴支所などに配置し、転入者等にも情報提供を行っています。また、町の広報紙やホームページなど様々な広報媒体を活用して、生涯学習情報の提供に努めました。

相談体制については、それぞれの求めに応じて学習できるよう、担当部署において事業を行い、住民の声を反映できるような体制を整えました。

■ 今後の課題と対応

生涯学習について、「カルチャー&スポーツ」のさらなる内容の充実を図っていきます。町のホームページや広報紙における生涯学習情報の充実を図るとともに、SNSの活用など、これまでの手法を見直しながら、さらなる拡充に努めます。

住民からの相談内容は、分野・レベルなど多様化の方向にあり、担当部署の職員は、研修、各種情報交換などを通してより専門性を高める必要があります。また、相談者を的確に担当部署へ導くことが出来るように、部署間の連携や情報共有をより一層図っていく必要があります。



16	生涯学習課 中央公民館	施策	人材の育成と活用
----	----------------	----	----------

■ 施策目標

- ① 指導者、ボランティアの育成・活用
- ② 各種団体・NPO・ボランティアグループとの連携

■ 平成30年度の主な取組と成果

- ① 指導者、ボランティアの育成・活用

青少年リーダー養成事業を実施し、子ども会リーダー等174人が参加しました。

- ② 各種団体・NPO・ボランティアグループとの連携

青少年教育や家庭教育推進事業等において、JFEスチール(株)やファイザー・ファーマ(株)といった地元企業や各小中学校、PTA、じじばばの会、婦人会などの団体との共催・協力により各種事業を行いました。また、公民館まつり、ふるさとまつりにおいて、各種ボランティア団体で実行委員会を組織し、企画・運営を行いました。

■ 今後の課題と対応

地域に多く潜在している人材を発掘・育成し活用することは、人々に活躍の舞台を提供し、地域づくり・まちづくりにもつながるものです。

町民の多様な生涯学習のニーズに対応するためには、「学ぶ」側のみならず、「指導・サポート」の側に立つ人材が必要となります。機能が不十分となっている「生涯学習ボランティアバンク」の再構築をはじめ、人材確保を積極的に推進し、各種講座・教室、行事などにおける指導者やアシスタントとして活用していきます。

そのほか、各種団体をはじめボランティアグループ、地元企業などとの連携、協力関係をさらに推進し、各事業への積極的な参加協力を図っていきます。



ものづくり教室



もちつき大会（家庭教育推進協議会）

17	生涯学習課	施策	青少年の健全育成
----	-------	----	----------

■ 施策目標

青少年健全育成事業の推進

■ 平成30年度の主な取組と成果

7月21日に「青少年健全育成推進町民大会」を「社会を明るくする運動推進大会」と共同開催しました。また、町内での啓発活動や有害図書類の回収を実施しました。さらに、「家庭の日」普及推進のため、啓発ポスターの募集展示、親子ふれあい教室の開催、毎月第3日曜日（家庭の日）の前日の土曜日に広報車による巡回活動を実施しました。

義務教育を終えた若者の引きこもり対策について、「子ども若者育成支援事業委託」として社会福祉協議会と連携しながら活動への支援を行いました。

【県民運動の推進】

県民運動	期 間
青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動（夏期）	7/ 1 ～ 8/31
青少年によい本をすすめる県民運動	10/ 1 ～ 10/31
子ども・若者育成支援県民運動	11/ 1 ～ 11/30
青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動（冬期）	12/20 ～ 1/10
「家庭の日」県民運動	2/ 1 ～ 2/28

※ 毎年6月に実施してきた「暴走族追放強調月間」については、当年度より「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動（夏期）」の中で実施していくこととなった。

■ 今後の課題と対応

青少年健全育成推進町民大会の平成30年度入場者数は、102人でした。

これまで以上に青少年の健全育成に寄与する団体等に声掛けをし、多くの人が集まる催しを考えてきましたが、なかなか増加に至っておりません。大会の内容はもとより、PRの手法を含め、より盛会となるよう工夫が必要です。

今後も県民運動に関しては、関係行政機関や各種団体、地域、家庭と密接に連携し、施策がより効果的・効率的に推進できるよう内容を吟味し、活動の意義と町民への啓発方法については、近隣の市町の事例も参考にしながら取り組んで参ります。

子ども若者育成支援については、国や県の施策とも連動しながら、役場内の関係部局と連携した引きこもりやニートへの切れ目のない対策を考えていきます。



青少年健全育成推進町民大会

18	生涯学習課 中央公民館	施策	生涯学習環境の整備
----	----------------	----	-----------

■ 施策目標

- ① 生涯学習関連施設の整備と有効活用
- ② ICT*の活用による施設利用のネットワーク化

* ICT = Information and Communication Technology (情報通信技術)

■ 平成30年度の主な取組と成果

- ① 生涯学習関連施設の整備と有効活用

町内の主な生涯学習関連施設としては、中央公民館、ゆめたろうプラザ（町民会館）、総合体育館、図書館、歴史民俗資料館などがあり、多くの住民に利用されています。

中央公民館については、昭和51年に建設され、町内の生涯学習施設の中で最も古い施設ですが、平成25年度に耐震改修工事及びエレベーター設置工事を実施し、29年度には講堂の床を全面改修するなど、安全で利用しやすい施設への修繕を図っています。また、平成28年度から洋式洗浄機付きトイレへの変更を順次進めており、平成30年度からは各部屋の照明のLED化も順次進めているところです。

一方、現在の利用団体のほとんどが固定化された減免団体となっている状況であり、利用料の在り方が問題となっています。そのため町内施設の料金設定方針を統一し、平成29年8月から利用料を改定しました。また減免規定の見直しについても今後、準備を進めてまいります。

- ② ICTの活用による施設利用のネットワーク化

県及び市町村で共同開発している「あいち共同利用型施設予約システム」を利用して、中央公民館、総合体育館（運動公園等を含む）でインターネットによる施設予約を導入しています。このシステムは、利用層が比較的若い総合体育館においては活用されていますが、高齢層が比較的多い中央公民館では活用が少ない状況です。

■ 今後の課題と対応

- ① 生涯学習関連施設の整備と有効活用

町内の生涯学習施設は、最も古い中央公民館をはじめ多数あります。各施設において、多数の利用者が安全かつ安心して利用できるよう、今後も施設の補強や修繕など時代に対応した設備の改良が必要となってきます。

また、町民全体の平等性を維持していく上からも、公共性の度合いや、負担能力の状況等から、減免制度について見直していくことも必要です。

- ② ICTの活用による施設利用のネットワーク化

施設予約システムに限らずあらゆる部門でのネットによる情報利用が行われている昨今、高齢者を中心としたデジタルデバインド（情報格差）の解消を進める必要があります。

また、愛知県生涯情報システム「学びネットあいち」への情報提供や利用促進を図ることや、「カルチャー&スポーツ」のWeb化を図ったり、情報発信にSNSを活用するなど、当町の生涯学習情報をICTで活用する検討も必要です。

19	生涯学習課 歴史民俗資料館	施策	文化財の保護・活用
----	------------------	----	-----------

■ 施策目標

天然記念物、遺跡、有形・無形文化財等の保存・継承・公開

■ 平成 30 年度の主な取組と成果

① 壱町田湿地植物群落

県指定天然記念物である「壱町田湿地植物群落」については、「壱町田湿地を守る会」の管理協力を得るとともに、「壱町田湿地を守る小中学生ボランティア」の児童・生徒及び教職員の協力をいただき、年間を通じその保全保護・維持管理に努めました。

また、湿地の一般公開は、7月から9月に実施し、町内外から多くの方々が訪れましたが、平成30年度は猛暑日となり、前年度を大幅に下回りました。



【壱町田湿地植物群落一般公開実施状況】

平成 30 年度	
公開日	見学者（人）
7月22日（日）	119
8月4日（土）	54
8月5日（日）	55
9月8日（土）	78
9月9日（日）	60
合計	366

年 度	見学者（人）
平成 26 年度	743
平成 27 年度	544
平成 28 年度	618
平成 29 年度	701
平成 30 年度	366

② 三井家住宅

平成27年にその一部が国登録有形文化財となった三井家住宅については、地元住民で構成された団体「三井家住宅を護る会」が、毎月2回の公開事業を実施し、町内外から902人が訪れました。また、護る会の依頼により公開日の情報を町広報誌に掲載しました。

③ 有形・無形文化財

有形・無形文化財の保存・継承については、町指定文化財である山車の維持保存事業、祭囃子の伝承者育成事業に対し補助金を交付し、後継者育成・後世への伝承に努めています。

（補助金額）

有形民俗文化財保存維持補助金	11 団体	各 94,000 円
祭囃子等伝承者育成補助金	12 団体	各 51,300 円
有形文化財保存修理事業補助金	1 団体	1,189,900 円
有形文化財保存施設整備事業補助金	2 団体	5,277,000 円

■ 今後の課題と対応

壺町田湿地では、湿地周辺の環境変化や、気象変動など様々な要因により、湿地の環境にも大きな影響を受けていると考えられ、今後の保護保全のために、より一層きめ細かな対策が求められます。特に、湧水の確保や水質の維持については、継続的かつ効果的な対応が不可欠であり、湿地内の食虫植物をはじめとする植生の変移についても、専門家の指導助言を得ながら引き続き対処していきます。平成24年3月から愛知教育大学に、シロバナナガバノイシモチソウの遺伝子の多様化を通じた株数増加の取組事業を委託した結果、湿地内の一部、改良を試みた周辺の多様化率の上昇がみられたが、県内の他の湿地と比較すると多様化率は低く、絶滅の危機を脱したとは言い難い結果であり、今後も遺伝子の多様化の面から監視と改良を継続していく必要があります。

小中学生ボランティアと壺町田湿地を守る会との協働の作業につきましては、守る会の活動計画でもある湿地内の動植物の分布や植生についての記録を残す作業を、小中ボランティアと一緒に実施していきながら、壺町田湿地の保護・保存についての長期計画のためのデータ収集に努めます。

その他、有形・無形文化財の保存・継承については、既存の補助金制度等を活用し、今後も文化財の保護と活用の観点から、地域と町が協力して、後世にしっかりと継承できるよう努めます。

20	生涯学習課 歴史民俗資料館	施策	町の歴史や文化遺産の再発見と活用
----	------------------	----	------------------

■ 施策目標

町の歴史や伝統、伝説、伝承等の継承とまちづくりへの活用、歴史民俗資料館の事業・行事等の充実

■ 平成30年度の主な取組と成果

① 展示会の開催

常設展の他に、年2回の企画展示会を開催し、資料館に収蔵する多くの民具等の文化財の公開を行いました。はたおり作品展では、「はたおり友の会」のみなさんの手織り作品の展示とともに、はたおり体験教室を開催しました。むかしのくらし展では町内4小学校の3年生が社会見学に訪れる恒例の企画となっており、30年度は常滑市や美浜町からも来館されました。

展示会名	平成30年度		平成29年度	
	開催期間	来場者数	開催期間	来場者数
はたおり作品展	7/21～8/19	440人	7/22～8/20	589人
むかしのくらし展	12/15～2/10	1,352人	12/16～2/10	1,526人

② 教室の開催

資料館にて、「古文書教室」「おこしものづくり教室」など各種教室を開催しました。

教室名	平成30年度		平成29年度	
	開催日	参加人数	開催日	参加人数
古文書教室（中級）	第4土曜	延べ95人	第4土曜	延べ131人
おこしものづくり教室	2/23	12人	2/24	15人

③ 体験学習の開催

警固山周辺で、春はたけのこ、秋はさつまいもの収穫を体験する「おじいさんのアウトドア」は、「昔を学び伝える会」の協力により年2回開催しました。春の部では大人のみ申込が多くみられ、タケノコを掘り終えるとすぐに帰ってしまう組が多くみられました。

教室名	平成30年度		平成29年度	
	開催日	参加人数	開催日	参加人数
おじいさんのアウトドア 42	4/21	51人	4/15	41人
はたおり体験教室	7/21～27	30人	7/22～28	41人
おじいさんのアウトドア 43	11/17	22人	11/19	34人

④ 収蔵資料の保存・管理

民俗資料を始めとする登録済収蔵資料は、現在5万8千点を超過しており、特別収蔵庫や隣接の木造倉庫などで保存管理を行っています。資料の貸出しは、名古屋市博物館への須恵器や土師器等の貸出しをはじめ、他餅つき道具等の貸し出し等、6件の申請がありました。

■ 今後の課題と対応

歴史民俗資料館の責務は、展示内容の充実と収蔵品の保管管理ですが、武豊町の歴史・文化等に対する住民の関心を高めることも大切です。今後も、各種教室や講座の実施を通して、それらの文化（財）的価値や魅力を幅広く伝えるための積極的な取組みが必要となります。

資料館の展示内容については、常設展示においては、昭和60年の開館以来、本格的な更新を実施しておらず、DVDの映像内容など時代に見合ったものへの変更が急務です。また装置の老朽化が進んでおりソフト面だけでなくハード面でも、メンテナンスを行える業者が少なくなっており、早急に新規躯体の導入の検討が必要です。

企画展示については、収蔵品等の有効活用という点でも、より多くの来館者に見学していただけるような魅力あるテーマの設定やこれまでにない新たな取組みが必要です。

体験学習の開催については、本来の目的である子供にむかしの野山遊びを体験してもらう企画であることを前面に出し、対象を小中学生とその保護者とするなど、タケノコだけを目当てにやってくる大人だけの参加者への対策が必要です。

また、秋の芋ほり体験については、畑の面倒を見ていただいていた方が高齢になり、次年度から1人になってしまうため継続自体が困難との話も出ており、芋ほりに代わる新たな企画を検討する必要があります。

21	生涯学習課 図書館	施策	図書館サービスの充実
----	--------------	----	------------

■ 施策目標

一人一人の年代ステージにおける自発的な学習、活動を行うための図書・資料・情報の提供

■ 平成30年度の主な取組と成果

平成24年度からの指定管理者制度の導入により株式会社図書館流通センター（TRC）が5年間の指定管理事業者として運営し、（平成28年度の指定管理者選考委員会を経て）平成29年度より再び5年間の基本協定を締結して、指定管理者制度は導入7年目となりました。

図書館の利用状況を判断、比較する指標の一つである住民1人当たりの貸出冊数については、平成30年度の数値は10.1冊/人（H29:10.8%）となり、前年度から微減となりました。

平成30年度の蔵書・資料等の受入冊数は7,982冊（H29:7,783冊）、除籍冊数は6,181冊（H29:4,945冊）、年度末における蔵書数は240,928冊です。図書館の資料収容能力はいよいよ上限に達し、受入作業と並行して除籍作業を進めている状況です。

1年間の予約冊数15,261冊（H29:16,478冊）のうち、インターネットや館内OPAC（Online Public Access Catalog オンライン蔵書目録）からの申込みは9,134冊（H29:7,813冊）となり、インターネットサービスも定着してきました。愛知県図書館主導による県内公共図書館横断検索（愛蔵くん）や資料物流（通函）の運用により、愛知、岐阜、三重、福井、石川、富山の各県内公共図書館と連携した「相互貸借」による利用者への資料提供も実施しています。

【利用状況】

区 分	29年度	30年度	前年度比
来館者数	203,117人	198,086人	97.5%
貸出人数	83,079人	77,060人	92.8%
貸出冊数	469,359冊	437,669冊	93.2%
蔵書数	239,127冊	240,928冊	100.8%
予約数	16,478冊	15,261冊	92.6%
相互貸借数	1,570冊	1,558冊	99.2%

※ 来館者数には資料の貸出利用者の他にも、図書や新聞、雑誌等の閲覧で来館された方や、学習室や展示室、館内イベント等で来館された方の人数も含まれています。

※ 貸出冊数には図書、視聴覚資料のほか、雑誌等の貸出しも含まれています。

※ 相互貸借数は、当館が他館から借受けた冊数と、当館が他館へ貸出した冊数の合計。

■ 今後の課題と対応

貸出人数1人当たりの貸出冊数（5.6冊/人）については前年度と変化が見られないことから、年間総貸出冊数の減少は、貸出人数（来館者数）の減少に起因するところが大きいと思われる。さらに当年度は、多くの児童生徒が来館する夏場に発生した異常高温や、秋の台風シーズン

ンにみられた暴風警報等による臨時休館などが、来館者数に影響を与えました。

現在の課題として資料の充実、とりわけ、開架図書（お客様が自由に手に取って読むことが出来る本）冊数の少なさがあります。指定管理事業者においては、配架（本棚への陳列）方法や、書架の修繕などの工夫により、よりたくさんの図書資料を利用者と結びつける努力を続けていますが、開架率は37%と低く、蔵書の半分以上が閉架図書（利用者が自由に手に取ることの出来ない本）であるというのが現実です。OPAC（Online Public Access Catalog オンライン蔵書目録）の利便性向上や、閉架書庫の内覧会の実施、小中学校・保育園などへの閉架児童書の貸出しなど、今後も閉架図書の効率的な活用を図り、図書資料全体の利用増加を目指します。

また、開架室や閉架書庫に限らず、町立図書館全体としての資料収容能力も限界に達しており、年間の受入冊数と除籍冊数が拮抗しています。今後も受入数と除籍数はほぼ同数で推移しますが、資料の除籍については資料個々について重要性、保存の有効性、地域性などを配慮しながら慎重に行っていきます。あわせて、平成29年度より県レベルでの資料保存事業（ラストワン・プロジェクト）に参加しましたので、当町・当館における貴重・重要資料については今後も厳格な保存管理を行うとともに、県内の他館に保存を依存できる資料については効率的な除籍を行い、書庫の有効利用に努めます。

7年度目を終えた指定管理者制度については、受託者においても武豊町における図書館運営のノウハウが蓄積され、現在のところは順調に推移しています。しかしながら、受託者のアイデアによるサービスの向上と、多数のイベント開催による来館者数の増加などにより、これまで上昇傾向にあった利用の各種指標は、ここ数年は頭打ちか微減の傾向が見えてきています。指標を押し上げていく施策は当然必要ではありますが、現在維持し続けている住民一人当たり年10冊以上の貸出（年間総貸出冊数／武豊町の人口）を維持し続けていくことに重点を置いて、毎年2月に実施（3月に公表）の利用者アンケートの分析や利用者意見の集約なども行いながら、現在の良好なサービスの維持に努めていくことが、まず重要です。

教育委員会としても図書館、出版、情報技術などに関する社会情勢を把握し、将来の町立図書館像についての検討や、住民への図書館サービスに支障のないよう、指定管理者任せにすることなく図書館運営についてチェックしていきます。

また、図書資料や情報を住民に提供するという図書館の基本的機能を根幹とし、利用者の底辺を広げながら（利用促進）、中身の濃い情報提供サービス（質の向上）が継続できるような事業展開を図ります。



22	生涯学習課 図書館	施策	読書推進
----	--------------	----	------

■ 施策目標

- ① 子ども読書推進
- ② 図書館行事の充実

■ 平成30年度の主な取組と成果

① 子ども読書推進

【小学校への資料貸出】

※（ ）は平成29年度

項目	冊数	摘要	貸出期間
貸出冊数	4,980冊 (5,066冊)	町内4小学校	学期単位

図書館の閉架図書を有効利用する観点から、各小学校に対して文学作品を中心とした団体貸出を実施しています。小学校図書室や学級文庫の資料を補てんし、児童の図書への関心を深めるなど、評価を得ています。

他にも、調べ学習の観点から、教科やテーマに沿った資料を団体貸出（期間は1か月）しています。平成30年度は町内小中学校に対して、1,128冊（H29:1,184冊）を貸出しました。

【ブックトークの実施】

ブックトーク（テーマに沿った本の紹介）により、本を仲立ちとして参加した仲間では様々な考え方や発見を共有する機会ができます。また、子どもが本と向き合うきっかけづくりにもなります。本年は依頼のあった衣浦小学校において実施しました。



ブックトーク（衣浦小学校）

【コンクールの実施】

【読書感想文、読書感想画コンクール】

※（ ）は平成29年度

区分	応募人数				合計
	感想文		感想画		
小学校	低学年	382人 (381)	低学年	233人 (241)	2,443人 (2,318)
	中学年	726人 (699)	中学年	242人 (121)	
	高学年	808人 (817)	高学年	52人 (59)	
	計	1,916人 (1,897)	計	527人 (421)	
中学校	1,212人 (1,278)		352人 (380)		1,564人 (1,658)
合計	3,128人 (3,175)		879人 (801)		4,007人 (3,976)

夏休みに親しんだ本の感想を感想文と絵に表現しました。応募作品の中から、「優秀」「優良」「入選」を選定し、図書館フェスタ（11月3日）において表彰式を行いました。

【武豊町立図書館を使った調べる学習コンクール】

（単位：点）

小学1・2年生	小学3・4年生	小学5・6年生	中学生	子どもと大人	合計
4 (5)	7 (7)	21 (25)	0 (3)	0 (1)	32 (41)

優秀作品2点は、図書館振興財団主催の「図書館を使った調べる学習コンクール」（全国大会）に出品し、2点とも「佳作」を受賞しました。

学校における読書推進計画実施状況

学校毎に特色のある読書活動を実施しています。「朝の読書タイム」など児童・生徒が図書に親しむ時間が設定され、さらには教師、地域ボランティアによる読み聞かせなどの活動も行われています。図書館においては、小中学校における読書活動について資料支援やブックトーク、情報交換などのサポートをしています。

【保育園へのアプローチ】

図書館から町内各保育園へ出前のおはなし会や、えほんかるた大会、テーマに沿った絵本などの貸出には、町内の全ての園より依頼がありました。保育園へのアプローチについても、小学校同様、積極的に取り組みました。



保育園でのおはなし会

② 図書館行事の充実

【読み聞かせ、お話し会、朗読会】

行 事	実施状況		参加対象者、人数
	開催日	演 者	
おはなしの会	毎週土曜日	おへその会	子どもから大人 5～10人/回
コアラの会	毎週木曜日	図書館スタッフ	乳幼児 15～20組(親子)/回
楽しい夏のおはなし会	7月22日	おだんごばん	17人
図書館のたんじょう日を祝う 夏休みおはなし会	8月1日	おへその会	33人
夏だ！わいわいおしゃべり劇場	8月26日	ぼっけ	37人
大人のための朗読会	5月8日, 8月7日 11月27日, 2月26日	グループ 空	1回あたり 約21人

各々の「おはなし会」はボランティアの協力もあり、定例行事として定着してきており、参加者数も増加の傾向にあります。

【講座・講演等】

行 事	実施状況		参加人数
	開催日	講師	
調べる学習チャレンジ講座	7月1日	図書館スタッフ	20人
夏の工作会	8月5日	滝本 美代子	26人
たけとよ寄席	9月23日	愛知大学 落語研究会	59人
牧田先生の楽しい おしゃべり文学講座	10月13～27日 (毎週土曜, 計3回)	牧田 利秋	延べ82人

大人の塗り絵講座	6月17日	加藤 洋一朗	28人
親子で学ぶ！読書感想文の書き方ポイント講座	7月22日	久野 美奈子	9組（18人）
漢字で覚える韓国語	1月19日	劉 静煥	25人
ハンドマッサージレッスン	2月10日	三浦 智美	28人
手話をやってみませんか？	3月17日	森田 清弘 土田 一恵	20人

【図書館フェスタ 2018】

11月3日（文化の日、読書週間の中日）に、読書感想文・感想画コンクール表彰式、図書館を使った調べる学習コンクール表彰式をはじめ、おはなし会、本のリサイクルフェア、ボードゲーム等のイベントを行いました。

【その他の行事】

行 事	開 催 日	参加状況
絵本セラピストによる 絵本セラピー	5月27日・6月9日 12月16日・12月22日	延べ 41人
こどもクイズラリー	11月10日～12月9日	205人参加
本との縁結び	3月1日～3月31日	縁結びカード 450枚配布

■ 今後の課題と対応

住民からは所在場所を含め比較的認知度は高い施設であるので、いかにして図書館に足を運んでいただけるか、いかにして来館者を読書（資料利用）に導くことが出来るのか、を課題として日々の図書館運営を行っています。

子どもの読書活動の推進については、0歳児からティーンズまで、また保育園や学校での読書活動のほかに家庭や地域での読書活動についても着目し、新たな計画策定に向けて現



こどもクイズラリー

況調査や情報収集を進めます。館内行事については、ボランティアサークル「おへその会」をはじめとするボランティア団体等の地域の力を活用・支援しつつ、図書館自体の専門性や活動実績を基礎とした事業展開を進めます。ボランティアの育成については、読み聞かせ講座などのさらなる充実を図るとともに、新規ボランティアの養成や、図書館業務への住民参加の拡充を進めます。また、「図書館を使った調べる学習コンクール in 武豊」は、子どもたちの「生きる力」「考える力」を育むための事業として、今後も継続的に開催していきます。

ほかにも、「ライブラリーコンサート」「たけとよ寄席」「閉架書庫見学ツアー」などの人気行事を継続して開催していくなど、今後も図書館の機能や資質が広く町民に理解され、より一層図書館が活用される、指定管理事業者のノウハウを活用した企画・運営を展開していきます。

23	町民会館	施策	みんなが文化を楽しむきっかけづくり
----	------	----	-------------------

■ 施策目標

みんなが文化を楽しむきっかけづくり

■ 平成30年度の主な取組と成果

NPOたけとよ委託事業で、人気のゆめプラサロンコンサートは年間7公演を実施しており、他の公共ホールと連携することで、質の高いクラシックコンサートを安価な入場料で提供し、気軽にクラシックが楽しめる企画で、安定的な収入が見込める事業です。

また、モーニングコンサート実行委員会の主催事業のゆめプラモーニングコンサートは、地元を中心に演奏活動をしている演奏者の支援と、演奏場所の提供を目的として、公募で演奏者を募ったワンコインコンサートです。これらの事業は初心者でも気軽にクラシック音楽を楽しむことを目的としています。

学校アウトリーチ事業として、町内の4つの小学校の四年生を対象に出前公演を毎年実施しています。30年度は、サクソフォン4重奏のカルテット・スピリタスの皆さんによる授業で、子どもたちに楽器の特性を学んでもらいながら、クラシックを始めさまざまなジャンルの音楽の演奏を楽しんでももらいました。こうした小学校の音楽教育の場で、本物の演奏に触れ文化を楽しむきっかけ作りを行っています。

有料鑑賞事業

項目	29年度		30年度	
	事業数	入場者数	事業数	入場者数
町民会館直営事業	4	1,993	4	1,490
NPO主催事業(委託事業)	11	2,976	14	3,047
実行委員会等委託事業	10	2,183	15	3,693
計	25	7,152	33	8,230

有料鑑賞事業の事業費と入場料

年度	主催者	A 入場料計(円)	B 事業費(円)	A/B(%)
29年度	町民会館	2,915,800	6,436,738	60.26
	NPO	5,802,000	10,647,889	54.49
	実行委員会	1,752,625	6,511,883	26.91
	計	10,470,425	23,596,510	44.37
30年度	町民会館	2,449,500	6,135,163	39.93
	NPO	7,473,200	13,163,616	56.77
	実行委員会	5,503,300	12,193,711	45.13
	計	15,426,000	31,429,490	49.08

日 程	主な公演(事業)名	会 場	入場者数	主催者
4月7日	レクチャー公演第10弾 神田京子のわくわく講談塾 in 武豊	響きホール	84	NPOたけとよ
4月28日	ゆめプラメイト総会アトラクション 和太鼓×マリンバ GONNA ゆめプラススペシャルコンサート	輝きホール	394	ゆめプラメイト
5月5日	NPO たけとよ創立15周年特別企画 サイエンスレクチャー JAXA 宇宙飛行士 油井亀美也 講演会 教えて油井さん！～宇宙から見た私たちの地球～	輝きホール	405	NPOたけとよ
5月13日	ゆめプラサロンコンサート① 海賊-ヴァイキング-男たちの熱き魂	響きホール	144	NPOたけとよ
5月20日	ゆめプラサロンコンサート② That's エンターテイナー！Ⅱ	響きホール	① 148 ② 124	NPOたけとよ
5月29日～ 6月3日	第24回武豊町絵画展	響きホール	1063	実行委員会
6月6日	オカリナ七重奏 G.O.B-ゴブ-	響きホール	188	NPOたけとよ
7月7日	ゆめプラサロンコンサート③ 闘うピアニスト	響きホール	182	NPOたけとよ
8月4日	2018 ジョイントフェスティバル愛知 シアター・トレ 「ぐっすりおやすみ」	輝きホール 舞台上	80	NPOたけとよ
8月22日	ゆめプラ プレモーニングコンサート サマースクール おんがくのじかん	響きホール	165	実行委員会
8月25日	結成30周年記念公演 社会風刺コント集団ザ・ニュースペーパー in たけとよ	輝きホール	382	NPOたけとよ
9月1日	祝 町制65周年 プレイメントコンサート 陸上自衛隊中部方面音楽隊 in たけとよ	輝きホール	616	日油株式会社 実行委員会
9月2日	稲垣潤一コンサート 2018	輝きホール	586	NPOたけとよ
9月8日	大人が楽しむしげちゃん一座	響きホール	87	舞台芸術企画 ゆめっぴ
9月9日	みんなハッピーしげちゃん一座	輝きホール	534	舞台芸術企画 ゆめっぴ

9月16日	Swing Band TAKETOYO 第22回定期公演	輝きホール	346	教育委員会
9月17日	ゆめプラサロンコンサート④ 歓びと哀しみと	響きホール	165	NPOたけとよ
9月19日	ゆめプラモーニングコンサート① hiromi ♪のおしゃべりコンサート ～ピアノと歌とウクレレと～	響きホール	176	実行委員会
10月7日	第19回武豊町文化協会芸能祭	輝きホール	588	文化協会
10月8日	サイエンスレクチャー 明石市立天文科学館 井上毅館長講演会 ブラック星博士 東海征服計画 in たけとよ	響きホール	143	NPOたけとよ
10月13日	NPO たけとよ創立15周年特別企画 SHIRO-A LIVE SHOW TECHNO CIRCUS	輝きホール	287	NPOたけとよ
10月17日	ゆめプラモーニングコンサート② フルート・インディアンフルート 癒しの音色コンサート	響きホール	152	実行委員会
10月27日	ゆめプラサロンコンサート⑤ 多彩な音色を紡ぐ	響きホール	150	NPOたけとよ
11月3日～ 11月4日	町民文化祭	全館	2700	実行委員会
11月17日	名作映画鑑賞会 ① ポス・ベイビー ②星めぐりの町	輝きホール	③ 521 ④ 225	文化協会
11月18日	ゆめたろう寄席 2018 豪華三つ巴競演会	響きホール	191	教育委員会
11月21日	ゆめプラモーニングコンサート③ Duo Rose 弦の調べ ～Ⅲ～	響きホール	191	実行委員会
11月24日	文化講演会 2018 山田邦子 「大丈夫だよ、がんばろう！」	輝きホール	548	教育委員会 中部電力株式会社 武豊火力発電所
11月25日	ヴァイオリンリサイタル 石田泰尚の世界	響きホール	196	NPOたけとよ
12月1日	芸術と科学のハーモニー特別講演会 「Tra_Digital」～情報技術を用いた伝統文化 の新しい保存活用への挑戦～	響きホール	63	実行委員会

12月8日	ゆめプラサロンコンサート⑥ 最少オーケストラ!	響きホール	145	NPOたけとよ
12月15日～ 12月16日	武豊町民劇団 TAKE TO YOU 定期公演 玉手町ロックンロール探偵団	輝きホール	① 379 ② 257 ③ 317	教育委員会
12月19日	ゆめプラモーニングコンサート④ ピアノ名曲の贈り物	響きホール	130	実行委員会
12月23日	はやぶさ2ミッション・マネージャ 吉川真講演会「まことのハナシ Part2」	響きホール	160	実行委員会
12月24日	アウラ×ゆめホテル®クリスマスコンサート 「聖なる歌声」	輝きホール	187	NPOたけとよ
1月16日	ゆめプラモーニングコンサート⑤ 金管五重奏で奏でる日本の名曲	響きホール	122	実行委員会
1月27日	知多半島春の国際音楽祭 2019① 4人で奏でる小さなオーケストラ ～ファミリーコンサート編～	響きホール	① 167 ② 160	実行委員会
2月2日	知多半島春の国際音楽祭 2019② ツインヴォーカル・ジャズユニット 「SOLO-DUO」	響きホール	68	実行委員会
2月3日	知多半島春の国際音楽祭 2019③ パトリック・ガロワ フルーツ・リサイタル	響きホール	100	実行委員会
2月9日	知多半島春の国際音楽祭 2019④ 小曾根真 ソロ・ライブ	輝きホール	333	実行委員会
2月10日	知多半島春の国際音楽祭 2019⑤ 華麗なる双子姉妹のソプラノ・デュオ・リサイタル 山田姉妹「心のうた」 ～クラシックから懐かしい日本の歌まで～	輝きホール	265	実行委員会
2月17日	知多半島春の国際音楽祭 2019⑥ アキラさんとマコト君 ふたりのオーケストラ	響きホール	190	実行委員会
2月20日	ゆめプラモーニングコンサート⑥ ウィーン物語が贈る 「懐かしい歌とちょっと懐かしい歌」	響きホール	187	実行委員会
2月24日	Swing Band TAKETOYO 第23回定期公演	輝きホール	370	教育委員会
3月10日	知多半島春の国際音楽祭 2019⑦ 合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」	輝きホール	① 501 ② 492	実行委員会

■ 今後の課題と対応

NPOたけとよによる学校アウトリーチ事業は、こどもや若者が文化をより身近に感じ、興味をもって文化に触れ、自ら表現する機会を作り、文化に親しむことを目的としています。今後も各学校と連絡を密にしながら、継続して行きたいと考えています。

武豊町民劇団 TAKE TO YOU、Swing Band TAKETOYO の2団体は、平成29年度より、定期演奏会、定期発表会の事業費を委託料に変更し育成期間を終えております。しかし、練習会場の確保や公演諸経費について、今後も改善が必要とされます。完全な自立ができるよう指導し、各団体ともに運営改善を促します。

知多半島春の国際音楽祭については、4回目の平成30年度には文化庁の補助金の交付を受けると共に、地元企業の協賛も併せ、195公演、21,827名の規模で、武豊町実行委員会企画の「合唱構成ぞうれっしゃがやってきた！」の公演でファイナルを飾る事ができました。

この音楽祭は、知多半島5市5町の各実行委員会と連携しており、運営委員会が公演開催を取りまとめ、各公演情報を発信した広報活動や各実行委員会の活動支援を行ってきました。

今後は、各市町実行委員会と連携し、武豊町が関わっている運営委員会事務の簡素化を図り、情報発信の見直しを行います。また、武豊町実行委員会の企画事業については、更により多くの方に春の音楽祭を楽しんでもらえるよう企画の充実や武豊町実行委員会の組織の拡充に努めます。



武豊町民劇団 TAKE TO YOU
「玉手町ロックンロール探偵団」



Swing Band TAKETOYO
第22回定期演奏会



知多半島春の国際音楽祭 2019
合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた！」

■ 施策目標

子ども・若者が文化に親しむ機会づくり

■ 平成30年度の主な取組と成果

「レゴロボット製作教室」などの芸術と科学のハーモニー事業等、子どもたちの創造力を養う事業を数多く実施しました。

舞台芸術企画ゆめっぴは、児童を対象とした舞台芸術の公演で、30年度は、室井滋主宰の「みんなハッピーしげちゃん一座」と「大人が楽しむしげちゃん一座」の2公演を実施しました。



レゴロボット製作教室の様子



ゆめっぴ企画

■ 今後の課題と対応

地域において子どもたちに継続的に舞台公演にふれる機会を提供するため、舞台芸術の公演（児童を対象としたもの）を実施しました。また、製作・企画能力を高め、専門性の必要となる児童へのアプローチをより効果的に行っていくために、ネットワークをつくり地域文化の活性化を図りました。しかし、対象者の年齢層が異なったため、セット券の売り上げが伸びませんでした。今後、詳細なリサーチを行ったうえでチケット価格やセット区分の設定などを行ってまいります。今後も、こどもや若者が文化をより身近に感じ、興味を持って文化に触れ、自ら表現する機会を作り、文化に親しむ事業を展開します。

25	町民会館	施策	芸術と科学による本物体験
----	------	----	--------------

■ 施策目標

住民参加型協働の連携で、芸術と科学のハーモニー事業による本物体験との促進

■ 平成30年度の主な取組と成果

NPOたけとよとの協働事業でさまざまな体験講座を行い、芸術と科学のハーモニー事業を行いました。モデルロケット製作教室&打ち上げ大会やサイエンストークでは地元企業の協力で内容も充実しました。また、天文・宇宙関連事業のJAXAの協力によるコズミックカレッジでは、専門的な実験を体験することができる講座を行いました。開催運営に多くのボランティアスタッフが参加し、円滑に事業を行いました。



モデルロケット打ち上げ大会の様子



サイエンストーク（エイゼン）の様子

協働による講座・教室

開催日	主な公演(事業)名	会場	参加者数	主催者
4月21日	「天文・宇宙関連」事業 モデルロケット製作教室&打ち上げ大会	創作工房 情報考房 ふれあい広場	製作20 打上のみ2 打上観覧22	NPOたけとよ
6月2.3日	「ものづくり教室」事業 ゴム銃製作教室&競技会	創作工房	延べ20	NPOたけとよ
6月 23.24.30日 7月8日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆初級	創作工房	28	NPOたけとよ
7月11日 ～14日	「レクチャー」事業 はじめての石膏デッサン体験教室	情報考房	10	NPOたけとよ
7月24.25日	「ものづくり教室」事業 クラフトラボ LEDブラックホールを作ってみよう	創作工房	延べ18	NPOたけとよ
8月4.5日	「レクチャー」事業 「ガムテープで君だけのサンボールコスチュームを作ろう!!with魔界帝王デスカイザー」	創作工房	7	NPOたけとよ

8月18日 ～26日	「レクチャー」事業 現代アートの鑑賞 「スマイル・ワールド/未確認浮遊物体」展	ギャラリー	延べ 8671	NPOたけとよ
8月18日	「レクチャー」事業 現代アートの鑑賞 「スマイル・ワールド」を作ろう！	創作工房	17	NPOたけとよ
9月15日	「アニメーション制作体験講座」事業 話し方体験講座～声・滑舌編～	情報考房	12	NPOたけとよ
9月17日	「天文・宇宙関連」事業 天体望遠鏡製作教室 天体望遠鏡を作っちゃおう！	創作工房	20	NPOたけとよ
9月17日	「天文・宇宙関連」事業 ゆめプラ星空観察会	芝生広場	10	NPOたけとよ
9月24日	「アニメーション制作体験講座」事業 アフレコ体験講座	情報考房 スタジオ	11	NPOたけとよ
9月24日	「アニメーション制作体験講座」事業 話し方体験講座～プレゼン編～	情報考房	10	NPOたけとよ
9月30日・ 10月14日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆オトナ	創作工房	① 延期 ② 6	NPOたけとよ
10月4・11・ 25日 11月 15・22・23日 発表会 11月29日	カホン製作・演奏体験教室	製作・創作工房 教室・スタジオ 発表会・響きホール	10	教育委員会
10月7日 10月20日	ゆめホテルを作ろう！	味の蔵 創作工房	11	NPOたけとよ
10月8日	サイエンスレクチャー2018 明石市立天文科学館長 井上毅講演会 ブラック星博士東海制服計画inたけとよ	響きホール	143	NPOたけとよ
10月21日 11月17日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆中級	創作工房 大足エコステーション エコプラザ	14	NPOたけとよ
10月14日	「天文宇宙関連」事業 JAXA コズミックカレッジ 応援！はやぶさ2リュウグウの秘密に迫ろう	響きホール	キッズ 46 ファンダメ ンタル 26	NPOたけとよ
11月23日	サイエンストーク 株式会社エイゼン 追跡！資源リサイクル現場 未来のために減らし活かす	創作工房	14	NPOたけとよ
12月9日	アニメーション制作講座 日用品deトランスフォームvol. 3	創作工房	12	NPOたけとよ

12月16日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆オトナ	創作工房		NPOたけとよ
1月 13, 19, 26日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆上級	創作工房	6	NPOたけとよ

■ 今後の課題と対応

町民会館は、まちの文化創造活動の拠点として芸術と科学をテーマにした、住民の日頃の学習や練習の成果を発表し、創造の喜びと生きがいを持てるような有意義なイベントや住民が主体的に参加・活動できる事業を展開する必要があります。そのため、住民参画による多様なメニューづくりを行い、住民と行政が協働を実践する場にする必要があります。NPOたけとよのノウハウを活用するとともに、時代のニーズに見合った企画を行います。

また、住民参画によるボランティアについては、参加者自らが考え、職員等と協働で活動していく組織として、鑑賞事業の受付や客席案内等を行うフロントスタッフや広報スタッフ、情報スタッフ及び芸術と科学のハーモニー事業を企画運営するダヴィンチスタッフ等を育成・支援します。

26	町民会館	施策	会館の有効活用の促進
----	------	----	------------

■ 施策目標

住民の自主的な学習、創造、発表、交流等の場の提供

■ 平成30年度の主な取組と成果

町民等の自主的な学習、創造、発表、交流等をはじめ、地域の芸術家の創造活動、地域の公共的なイベント、民間事業者の経済的な視点を含めた文化事業等に、大・小ホール、創造スペース、情報スペースなど機能性の高い施設・設備を設置目的に沿って提供しました。

各施設ともに、稼働率に若干の変動はあるものの、利用形態はほぼ定着していますが、開館以来の目標稼働率60%を概ね下回っており、達成できた施設は輝きホール、練習室にとどまっています。特に、一面ガラス張りの練習室は、和太鼓やピアノ等の楽器の練習やヨガや太極拳などの健康体操、バレエやダンス等に幅広く利用されています。

会館施設の稼働率

施設名	29年度稼働率 (%)	30年度稼働率 (%)
輝きホール	57.1	64.5
響きホール	58.1	52.3
ギャラリー	33.2	53.5
創作工房	41.6	44.2
情報考房	43.8	40.6
練習室	80.6	73.6
ミーテングルーム	59.9	55.8
スタジオ	42.5	39.3
和室	34.5	32.6

■ 今後の課題と対応

町民会館の稼働率は自治体の同類施設の中では比較的高い水準にあります。ホールの音響の良さ・使いやすさが周知された結果と考えます。30年度は知多半島春の国際音楽祭2019の開催で、輝きホールの利用が増えたため、稼働率も微増しました。全体的には更なる有効利用促進を図ることが重要です。

前年度までは、ギャラリーは稼働率が伸びませんでした。NPO武豊主催の現代アート展やギャラリー企画展などの自主事業や町民劇団の定期公演中の衣装や大道具の保管場所に利用したり、また知多半島内の高校演劇の活動で利用されました。

令和2年度には、武豊町民会館使用料の改定を行い、より公平な受益者負担をお願いします。また、安心安全で快適な施設の提供ができるよう、令和2年度から3か年の計画で天井部材の耐震改修を計画しております。初年度は町民ロビー、続いて輝きホール、最後に響きホールの順番で行います。利用者への周知を徹底し、利用客に支障がないように努めます。

27	スポーツ課	施策	町民が生涯を通してスポーツに親しむことができる環境整備
----	-------	----	-----------------------------

■ 施策目標

- ① 住民が幅広く参加できるスポーツイベントの開催
- ② スポーツ推進委員の活動支援
- ③ スポーツ関係団体の活動支援
- ④ スポーツ情報の提供

■ 平成30年度の主な取組と成果

- ① 住民が幅広く参加できるスポーツイベントの開催 () は平成29年度実績

項目	参加者数	摘要
体力チェック	17人(15人)	握力, 上体起こし, 立ち幅跳び他
たけとよチャレンジ大会～新記録に挑戦～	400人(455人)	スリッパとぼし始め 10種目ほか
たけとよウォーカー2018 (ウォーキングイベント)	769人(1,187人)	ウォーキング3コース
第13回愛知駅伝	27人(26人)	町村の部 4位
町制65周年記念 第20回ゆめたろうスマイルマラソン大会	2,868人(2,776人)	5マイル始め 4コース
町民体育大会	3,450人(4,158人)	18競技

各種スポーツイベントの実施により、生涯スポーツの推進を図るとともに、住民の健康増進と体力の向上、世代間交流に寄与することができました。



第13回愛知駅伝



たけとよウォーカー

- ② スポーツ推進委員の活動支援

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき設置されており、住民のスポーツ振興に関し、実技指導や普及促進などを行うことを目的としています。

項目	実施回数	スポ推参加者数	摘要
定例会(月例)	12回	15人/回	事業計画立案等
カローリングカップ	1回	12人	大会参加者: 28人
スポーツふれあい事業(出前講座)	18回	延べ65人	福寿園ほか
たけとよウォーカー	1回	13人	実行委員ほか
ゆめたろうスマイルマラソン	1回	14人	参加者受付
各種研修会・研究会	5回	延べ45人	東海4県研究ほか



カローリングカップ



スポーツ推進委員研修会

③ スポーツ関係団体の活動支援

体育協会の活動支援として18競技部に1,607,000円の補助金を交付し、各大会等の会場提供をしました。また、スポーツ少年団体の活動支援として7団体に157,500円の補助金を交付しました。総合型地域スポーツクラブ（NPO法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ）の活動育成の一環としてスポーツ振興事業（各種教室およびイベント開催）を2,000,000円で委託し振興を図りました。体育協会は、加盟団体の競技大会、体育功労者表彰式等を始め、たけとよチャレンジ大会などのイベントを開催し、町のスポーツ振興に資する活動をしています。

また、スポーツ少年団体も、ジュニアの競技スポーツの推進を図っており、両団体に対する町の活動支援は有効に機能しています。

④ スポーツ情報の提供

各種のスポーツ情報は、半期ごとに全戸配布する「カルチャー&スポーツ」を始め、「広報たけとよ」や町・スポーツクラブのホームページ、事業プログラムなどを活用し、広く町民に提供しました。今後は、これらに加えSNSを情報発信の新たなツールの一つとして活用していくことも必要です。また、施設の空き状況検索や予約は、自宅のパソコンやスマートフォンでできるシステムの運用が定着してきました。

■ 今後の課題と対応

- ① 本町におけるスポーツイベントは、マラソン大会など多世代の多くの方を対象に実施しており、事業内容や実施種目の変更等、ニーズに合わせた見直しを行いました。スポーツの裾野を広げ、スポーツ実施率を愛知県と同じ目標値の60%まで高めるために、各種の大会や教室の充実はもとより、各地域など身近な場所で誰もがスポーツに親しめる環境づくりを行います。
- ② 町非常勤職員のスポーツ推進委員は、これまで地域におけるスポーツ実技指導の一端を担ってきました。今後は、町のスポーツ振興施策の企画立案に参画するとともに、住民の身近な立場からスポーツ振興施策の推進を図る役割が期待されています。特に総合型地域スポーツクラブの育成は、生涯スポーツ社会の実現に向けた国のスポーツ振興基本計画の最重要課題となっており、その活躍が期待されています。
- ③ 体育協会、スポーツ少年団体など既存のスポーツ組織と、総合型地域スポーツクラブとの住み分けや協調連携は、今後の町のスポーツ振興における大きな課題です。特にスポーツ少年団体は、総合型地域スポーツクラブの中心的役割を担うことが考えられ、両者が協働し、相乗効果を生むための仕組みの構築と事業展開を図っていきます。
- ④ スポーツ情報の提供には即時性のあるICTの活用が不可欠です。情報格差を生じさせない配慮をしつつ、スポーツクラブと連携してホームページを充実させ、誰でも、いつでも、どこからでもアクセスできる環境整備が急務となっています。また、施設予約について、パソコン・スマートフォンの申し込みが手軽にできるようシステムの利用促進及び啓発に努めていきます。

28	スポーツ課	施策	総合型地域スポーツクラブの育成支援
----	-------	----	-------------------

■ 施策目標

総合型地域スポーツクラブの育成支援（事業委託）

■ 平成30年度の主な取組と成果

- (1) 会員総数 753人(805人)
- | | | | | |
|----|--------|------------|-------|------------|
| 内訳 | 一般会員 | 119人(130人) | シニア会員 | 86人(86人) |
| | 小中学生会員 | 416人(459人) | 幼児会員 | 132人(130人) |

- (2) 研修会・講習会 ()は平成29年度実績

講習会名	開催数	対象	会場	参加者数
コーディネーショントレーニング	4回(4回)	クラブ指導者他 関係者	総合体育館	延べ36人(36人)
指導者講習	4回(4回)	クラブ指導者他 関係者	総合体育館	延べ42人(31人)
AED・応急処置	4回(4回)	クラブ指導者他 関係者	総合体育館	延べ42人(60人)

- (3) スポーツ教室 ()は平成29年度実績

教室名	開催日・開催数	対象	会場	参加者数
Jr陸上	5/20～2/16 全20回	小学生	武豊小運動場	106人(114人)
キッズフットサル	4/11～3/13 全42回	年長	総合体育館	20人(21人)
フットサル	4/11～3/13 全42回	小学生	総合体育館	60人(52人)
Jr野球	4/15～12/23 全24回	小学生	衣浦小運動場	6人(6人)
Jr体操	4/6～3/24 全112回	年少～小学生	総合体育館	186人(188人)
Jr新体操	4/12～3/14 全98回	小～中学生	総合体育館	38人(41人)
Jrバレーボール	4/14～3/23 全38回	小学生	総合体育館	36人(30人)
Jr卓球	5/20～2/24 全24回	小・中学生	富貴中	13人(21人)
キッズトレーニング	4/17～3/19 全23回	年中・年長	総合体育館	18人(25人)
Jrバスケ	4/12～3/14 全43回	小学生	総合体育館	22人(29人)
Jrダンス	4/25～3/20 全39回	小学生	総合体育館	4人(26人)
タグラグビー	4/17～3/16 全24回	小・中学生	富貴小	18人(16人)
親子バドミントン	4/28～1/12 全14回	小学生～一般	緑丘小	28人(21人)
エアロビクス	4/19～3/7 全20回	一般	総合体育館	9人(11人)
ヨガ	4/10～3/22 全136回	一般	総合体育館	91人(90人)
男性のための健康体操	4/11～3/20 全40回	一般男性・夫婦	総合体育館	16人(15人)
フラダンス	4/10～3/19 全36回	一般	総合体育館	26人(32人)
機能改善ヨガ	4/13～3/22 全36回	一般	総合体育館	17人(22人)
YOCHI-DIET	12/5～3/20 全18回	一般	総合体育館	12人
美ボディ	9/26～11/28 全10回	一般女性・子連れ	総合体育館	8人
美ママ	9/26～3/28 全22回	一般女性・子連れ	総合体育館	24人
ラクラクストレッチ	12/7～3/22 全12回	一般	総合体育館	12人

リラクゼーションヨガ	12/ 6～ 3/28 全 12 回	一般	総合体育館	11 人
優しいイス運動と足裏・足指ほぐし	1/ 9～ 3/20 全 9 回	一般	総合体育館	13 人

(4) 成人向け教室

健康麻雀倶楽部	4/10～ 3/19 全 36 回	一般	総合体育館	35 人
---------	-------------------	----	-------	------

(5) 介護予防事業

() は平成 29 年度実績

事業名	開催日	対象	会場	参加者数
玉貫体操サロン	4/21～ 3/29 全 25 回	60 歳以上	玉貫老人憩の家	延べ 1,110 人 (981 人)
下門体操サロン	4/ 6～ 3/29 全 48 回	60 歳以上	下門区公民館	延べ 1,638 人 (1,315 人)
富貴体操サロン	9/14～ 3/22 全 12 回	60 歳以上	富貴公民館	延べ 1,355 人 (522 人)

(6) 体験教室

() は平成 29 年度実績

事業名	開催日	対象	会場	参加者数
YOCHI-FIT	9/25, 9,26 全 2 回	一般	総合体育館	28 人
優しいイス運動と足裏・足指ほぐし	11/ 9～12/14 全 4 回	一般	総合体育館	15 人
夏季特別陸上教室	7/23～ 8/24 全 8 回	小学生	町内 4 小学校	延べ 610 人 (1,087 人)

(7) イベント

() は平成 29 年度実績

事業名	開催日	対象	会場	参加者数
ゆめフルキャンプ	8/14～ 8/16	小学 3 年生 ～中学生	中津川	12 人 (18 人)
大学生と遊ぼう	11/18	小学 2 年生 ～中学生	総合体育館	20 人
ゆめフル体操発表会	10/20	年少 ～中学生	総合体育館	183 人 (203 人)
J リーグ観戦	11/ 3	教室参加者	豊田スタジアム	48 人 (43 人)
ミニバス交流大会	9/ 8	小学生	岡崎中央総合公園	21 人
世界のクワガタ展	4/28～ 7/31	どなたでも	総合体育館	128 人
スキー教室	12/26	小学生・保護者	治部坂高原	51 人

(8) 文化事業

() は平成 29 年度実績

事業名	開催日	対象	会場	参加者数
クラフトバスケット	4/25, 5/23 全 2 回	一般	総合体育館	3 人
ハーバリウム	4/13～ 9/21 全 7 回	一般・親子	総合体育館	21 人



キッズトレーニング



体操サロン

多項目、多世代、レベルや興味に応じてプログラムが選べるように提供し、多くの住民が日常的に身体を動かす機会を増やすことにより、子どもの体力向上から高齢者の健康づくりまで、現代社会が抱える様々な問題を解決する一助になるように、クラブ育成の支援をすることができました。

■ 今後の課題と対応

住民主体の総合型地域スポーツクラブが自立的かつ持続的な運営を行うためには、事業を通じて、クラブの認知度を高め不足しているものを検証することが必要です。特にクラブの現在の当面の課題は、「会員の確保（増大）」「指導者の確保（養成）」「財源の確保」などです。

総合型地域スポーツクラブの運営には、質も高い指導者・クラブマネジャーの確保が必要であり、人材の確保と研修はスポーツクラブの育成と発展にとって重要な課題です。また、スポーツ振興の財源を行政外部に求めざるを得ない近年の財政状況は理解できるものの、スポーツ環境の基盤を整備するという行政の責務は失われたわけではなく、計画的な条件整備を可能にする一般財源の確保が求められます。

今後もスポーツクラブが自立的かつ持続的な運営が行えるよう支援を行い、町民の「スポーツ実施率」の向上を目指していくことが必要です。

29	スポーツ課	施策	子どもの体力の向上と青少年健全育成
----	-------	----	-------------------

■ 施策目標

- ① スポーツ活動の推進
- ② 多様なニーズへの対応

■ 平成30年度の主な取組と成果

- ① スポーツ活動の推進 () は平成29年度実績

項目	実施回数	参加者数	期間
プール一般開放	71回(88回)	1,703人(3,592人)	7/21~8/10

酷暑の中、夏休み期間に4つの小学校のプールを一般開放し、健康、体力づくりの向上に努めました。

- ② 多様なニーズへの対応 () は平成29年度実績

項目	実施回数	派遣種目・指導者数	会場等
中学校部活動指導者派遣	186回(159回)	新体操・柔道・バスケットボール 前期4人後期5人	武豊中
	211回(252回)	卓球・バスケットボール・野球 前期5人後期5人	富貴中

少子高齢化が進む中、将来の地域社会を担う子どもたちの健全な育成が重要であり、スポーツによせる地域住民の期待は高まっています。そこで、スポーツクラブと連携し、スポーツを楽しむ子どもたちの多様なニーズに対応するとともに、中学校の部活動の指導者不足を補うためのスポーツ指導者を各中学校に派遣しました。



プール一般開放



中学校部活動指導者派遣

■ 今後の課題と対応

- ① 子どもたちは本来、日常の様々な生活場面において自然に体を動かすことで、様々な動きを身に付けていきます。しかし、子どもたちを取り巻く環境の変化から、体を動かして遊ぶ機会も場所も減少しています。そこでスポーツとのより良い出会いを、スポーツクラブ、各種スポーツ団体と協働して提供することで、子どもが生き生きとスポーツに取り組み、「運動ざらい」の子どもたちが減少するような働きかけが必要です。
- ② 中学校の部活動以外の種目など、児童生徒一人ひとりの個性や多様なニーズに対応できるように、スポーツクラブと連携してレクリエーションスポーツ種目のクラブ活動化を進めていく必要があります。また、現在の中学校では、運動部数の減少や、専門種目以外の部活動を指導している教員も多くなっています。このような状況の中で、必要とされる外部指導者の導入によって、中学校でのスポーツ活動の環境整備が促進されつつあります。

30	スポーツ課	施策	スポーツ振興を支える基盤の整備
----	-------	----	-----------------

■ 施策目標

- ① 社会体育施設等の整備
- ② 学校体育施設及び教育委員会以外の所管施設の有効利用
- ③ 指導者の育成と支援

■ 平成30年度の主な取組と成果

① 社会体育施設等の整備

項目	事業費	摘要
運動公園修繕料	1,469千円	グラウンド照明配線改修等
運動公園施設営繕工事	971千円	トイレ便座取替
総合体育館修繕料	18,252千円	メインアリーナ屋根修繕
武豊緑地グラウンド修繕	508千円	フェンス修繕等

各社会体育施設の老朽化・台風被害に伴う必要箇所の修繕工事を行い、利用者の利便性、安全性、快適性の維持向上に努めました。

また、屋内温水プール施設整備に関して、PFI的手法により民間の企画力及び技術的能力を活用して行う方式とし、今年度は事業者を募集して入札及び提案に係る書類を受け付け、事業者の評価・選定の準備を進めました。

【社会体育施設等年間利用者数】

() は平成29年度実績

項目	年間利用者数	項目	年間利用者数
運動公園	32,612人(34,031人)	弓道場	2,524人(1,685人)
武豊緑地グラウンド	7,623人(5,694人)	総合体育館	161,299人(153,652人)

② 学校体育施設及び教育委員会以外の所管施設の有効利用

愛知県教育委員会の協力により県立武豊高等学校体育館・運動場を一般開放しました。

【学校体育施設及び教育委員会以外の所管施設の利用者数】

() は平成29年度実績

項目	年間利用者数	項目	年間利用者数
学校体育施設(体育館等)	55,902人(58,702人)	同左(運動場)	59,222人(56,698人)
武豊高校体育館	6,268人(6,388人)	同左グラウンド	560人(280人)

③ 指導者の育成と支援

指導者セミナーを開催し、指導者の育成、支援に努めました。

一般社団法人スポーツコーチング協会愛知支部

スポーツコミュニケーションアドバイザー&コーチ 藤井 久志 氏

『スポーツコミュニケーション』

() は平成29年度実績

項目	実施回数	参加者数	摘要
スポーツ指導者セミナー	1回	30人(45人)	

■ 今後の課題と対応

- ① 社会体育施設の老朽化に伴い、施設の改修、器具の更新の必要性が迫っており、その予算確保と修繕計画が早急の課題です。総合体育館空調設備の更新などの大規模修繕については、中長期財政計画に事業費を計上し、計画的な実施を目指します。

平成 27 年度の指定管理者制度導入検討委員会において、住民サービスと利便性を向上することや経費の削減などを目的に、総合体育館をはじめとする社会体育施設（運動公園・弓道場）への指定管理者制度を導入することが望ましいとの方針決定が出されました。今年度から 3 年間、武豊町総合体育館、武豊町運動公園、武豊町運動公園第 2 グラウンド、武豊緑地グラウンド、学校施設の開放（受付事務）に指定管理者制度を導入し、NPO ゆめフルたけとよスポーツクラブが業務を行っています。

また、小中学校のプールは、築 30 年を超え、老朽化が進んでおり、改修にかかる経費も膨れ上がっています。天候に左右されず学校の水泳指導ができ、多くの町民が、健康保持・増進のために利用できることから、屋内温水プールの施設整備に向けて準備を進めています。

- ② 現存の社会体育施設のうち一部の施設においては飽和状態となっています。住民が身近な場所でスポーツができるようにするためには、他所管の公共施設及び民間所有の体育施設の有効利用など、活動場所を確保する必要があります。
- ③ 町内にはスポーツ講座・教室の指導者となりうる高度な知識・技術を身に付けている人や、ボランティアとして社会に貢献しようと思っている人が多くいます。これらの方々と、指導者を必要とする団体との情報を共有化することが、地域に密着したスポーツ振興の礎となります。スポーツクラブと連携し、講習会、セミナー等を開催しながら指導者登録制度を確立することにより、指導者を育成支援していきます。

武豊町教育委員会の点検・評価に対する意見および総評（H30年度実施分）

点検・評価委員会の評価

◎ 学校教育関係

- 来年度から教科となる小学校5・6年生の外国語科（英語）で、子どもたちの英語の力を高めるために、子どもたちが生の英語に多く触れるよう、ALT（アシスタント・ランゲージ・ティーチャー）との会話活動の充実をさらに進めてほしい。
- いじめ不登校への対策は、他の市町と比べて多いからいけない、少ないからいいといったものではないが、武豊町の現状が知多の中でどのような現状にあるのかを知ることが必要である。数字を比較することで課題が見えることもあるのではないかな。
- 通学路の安全確保について、最近の痛ましい交通事故の状況を見ていると心配な気持ち強く、安全確保に向けてはさらに配慮をしてほしい。
- 防犯パトロールで、夜間地域を見回っていると、小中学校の先生が遅くまで仕事をしている姿を見る。働き方改革と言われているが、単純に時間だけ短くしても、仕事自体が減らないと、教員を希望する人がいなくなってしまうのではないかなと思う。
- PTAの立場として、近くで教育の現場を見ていると、対応しなければならない内容の多さを実感する。今は何を改善していくかという考え方よりも、今やっていることを無理なく着実に取り組んでいくという考え方が大切であると感じている。
- 地区の見守り活動をしている中で、小中学生の登下校時に大きな声であいさつをしてくれることをうれしく思っている。その反面、お祭りなどの行事の際に、帰るのが遅くなった子に声かけをしても、なかなか思いが伝わらないことも経験している。どのような声かけが子どもたちの健全育成につながるか、一緒に考えていきたい。

◎ 生涯学習関係

- 図書館の評価について年間総貸出冊数を指標としているが、登録者数で見ることの一つの視点だと考える。また、公民館事業の点検指標として、参加者数のみを示しているが、募集数とも比較することで、今後の課題が見やすくなると思う。
- 生涯学習の実施事業は、参加者数など、数字で評価される部分が多い。現在の施設・環境の中で事業を展開する上で、若年層の参加数減少や講師の高齢化などの課題はあるようだが、利用者が利用しやすいように企画してもらいたい。
- 高齢者の中には、時間に余裕があり、技術や経験を多くもった方も多い。そういった方を掘り起こして、地域事業の活性化につなげてほしい。
- 報告された事業には、自分も興味をもてるものがあった。ただし、今の告知の仕方では、自分から施設の掲示や広報などを見ないと情報が得られない状況にある。メール配信なども活用して、多くの住民に広報をする工夫をしてほしいと思う。
- 事業の中に、参加者が少ないものもあるが、内容によってはとても良いものもある。人数が少ないことですぐに無くすのではなく、周知の仕方、広報の仕方を工夫することで人を集めるように努力をしてもらいたい。
- 歴史民俗資料館については、保管している資料なども使いながら、時期に応じて内容やレイアウトを変えるなどして、リピーターにも対応できるようにしてほしい。

◎ 町民会館関係

- 体験学習に関する企画はとても良いものが多い。また、音響など施設面もとても充実している。施設の良さをさらに生かすためにも、他市町との共同企画なども積極的に取り入れていけるとよいのではないか。
- 輝きホールなど、収容人数が大きい施設で集客が少なかった場合などは、P D C Aのサイクルを活用して、見直しと改善を図っていけるとよい。

◎ スポーツ課関係

- 令和4年度運用開始の町のプールについて、小学校の授業でも活用する方針だと聞いている。移動などの難しさもあると思うが、ぜひ上手に運用をしてほしいと思う。
- 総合体育館の施設予約については、パソコンやスマートフォンなどからの簡易な申し込みの実現は急務であると考えている。システムの周知および使いやすさの見直しについても、今後取り組んでほしい。

◎ 委員長総評

- 第5次武豊町総合計画や武豊町教育大綱など、教育行政の推進のために柱建てをしっかりとした上で、各部局が施策に取り組んでいるところがよい。また、教育委員会が独立機関としてだけでなく、町長部局との連携を積極的に行っているところが評価できると考える。
- 教育は、その地域に住む人々の人格形成にどれだけ寄与できるかということであり、そこで育てられた人々が町づくりにどれだけ関わっていくようになるのかということであると思う。その基本となるのは家庭教育だと考えるが、そこに対してどのような啓発ができるのかという点についても、今後の取り組みに期待をしたい。
- 教員の働き方改革に関して、教員の働く時間を減らすことにだけスポットを当てて見がちであるが、全体への気配り、目配りをして考えることも必要である。例えば、学校の部活動の見直しが進んだ時に、子どもたちが部活動で費やしていた時間を地域社会がどのように受け入れるのかということも含めて支援を考えていく必要があると考える。
- 平成30年度の武豊町の教育行政について、各委員からの点検・評価については、大きな異存はなかったため、今回各委員から出されたさまざまな今後の課題に向けてはさらに尽力してもらい、町民が暮らしやすい町づくりにつなげてほしい。

上記のとおり武豊町教育委員会点検評価委員会としての意見とする。

令和元年 7月18日

武豊町教育委員会教育長 殿

武豊町教育委員会点検評価委員会